浮世絵師人名辞書

182
405

182-405
1200800142763

浮世繪師人名辭書

182-405

帝國圖書館藏

此書題字を求めず、故に予が滯歐米中、日本浮世繪愛好者百餘名より、予に寄せられたる書簡中、最も知名の士、數人を撰び、其署名を掲げて、以て題字に代ふ同時に、愉快なりし會遊を追懷するの記念とす。

大正十一年十二月　雙蛙

大正 12.3.14 內交

署名者

大英博物館理事　ローレンス ビニヨン氏

英國日英協會議長　ウイルソン クリウドソン氏

英國日本品鑑定大家　ヘンリー ジョーリ氏

英國日本品鑑定大家　アーサー モリソン氏

イースター フイルド氏
米國書家日本品蒐集家

チャールス フルヤ氏
米國日本品大蒐集家兼鑑定大家

ウイルリアム フレンチ氏
米國シカゴ美術院理事

ホーワード マンスフイルド氏
米國日米協會名譽會計長

バルソルド レーフア氏
米國シカゴ市フイルド博物館理事

フレデリツク メー氏
米國華府日本品大蒐集家

エドモンド メツサー氏
米國華府コヽラン美術學校長

フランク ミレツト氏
米國々立美術學校々長

ラフアエール ペトルチ氏
白耳義美術學校教授

アール ダンチー氏
佛國美術學校教授

アレキサンダー モスレ氏
獨逸日本品蒐集兼鑑定家

オスカー ビヨルク氏
端典美術學校教授

Laurence Binyon

W Crewdson

H. L. Joly

Arthur Morrison

Hamilton Easter Field

Charles L Freer

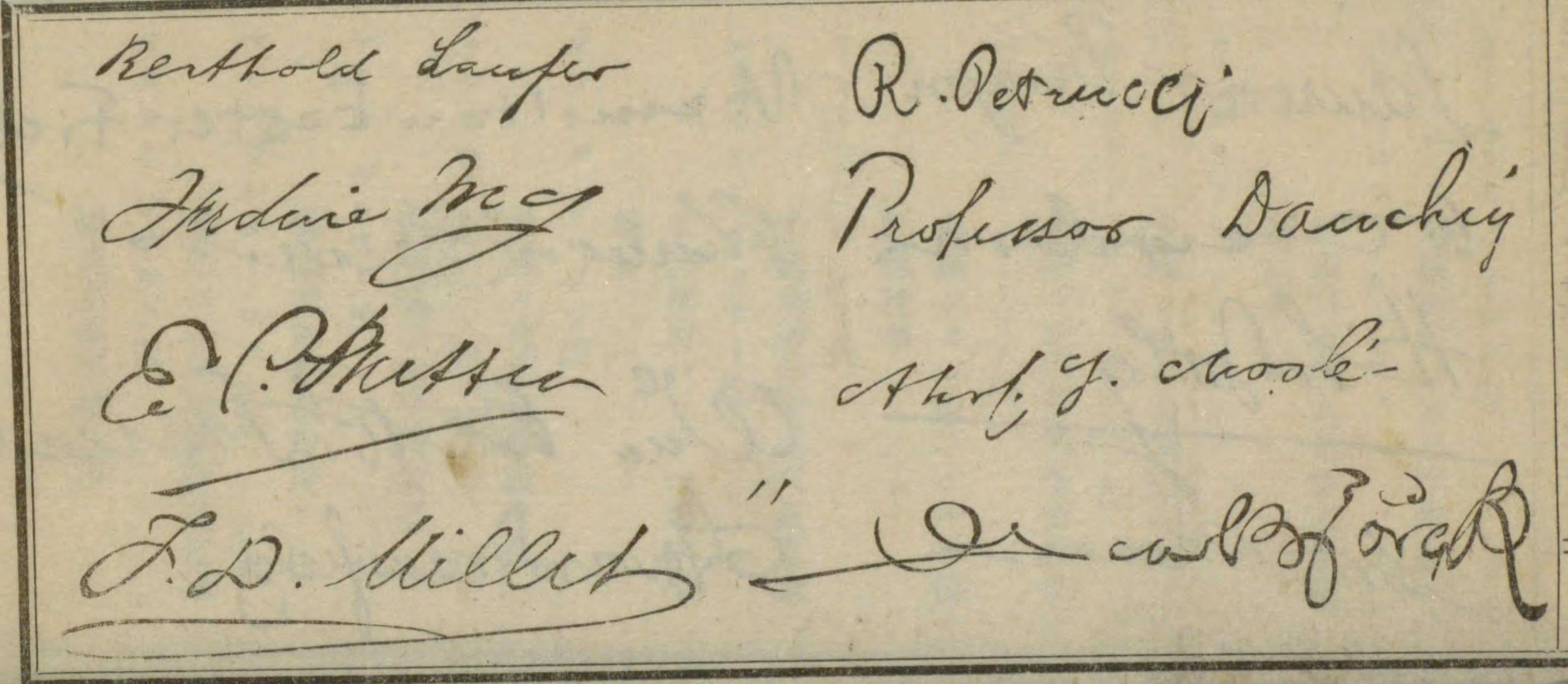
Wm. M. R. French

Howard Mansfield

緒言

日本浮世繪の海外に散佚するもの實に其總數の十中八九なり、我輩明治四十三年より大正二年に至るの間、遍く歐米の版繪蒐集家を歷訪して其蒐集の盛なるに一驚を喫せり、其内最も豐富にして數萬枚を所藏するものは、大英博物館サウスケンシントン博物館及びボストン博物館等ならん、其千枚前後の蒐集に至つては、個人蒐集家に於ても其人乏しからず、以て如何に版繪の流布せるかを想見すべきなり。

肉筆に至つては之を版繪の多きに比すれば誠に晨星の感あり獨りボストン博物館、キヨソネ博物館は最も優良なる肉筆浮世繪の多數を收容して一異彩を放てり、前者は久しく我帝國大學に教鞭を執りし



フェノロサ氏の寄贈により、後者は我大藏省に永年奉職せしキヨソネ氏の蒐集にかゝるを以て其撰擇の錯らする固より論なき所なり。

此書誠に少冊子に過ぎざれども、在來流布せる浮世繪師傳記と前述の如く多年、予輩が目睹せる實物により之を增補修正せしを以て聊か斯道初學者の便覽たるを得ば此著決して徒爾に非らざるべきを信ずるなり。

大正十一年仲夏

桑原雙蛙識

凡例

一、本書は固と斯道初學者の爲めに編纂せしを以て、繪師の詳傳を省畧せし點尠からず、看者之を諒せよ。

一、傳記中住所を記せざる者は、多くは江戶住と知るべし。

一、古人に委しくして、今人に粗なるは蓋し蓋棺の後に非らざれば其傳記は完了せざるを以て、之を後の增補に讓りしのみ。

一、初代又は一世と記せるも、同一義にして他意あるに非らず。

一、年代或は流派を記せざる者にして、師匠を明記する者は師匠の流派を名乘り、且つ其年代も之と畧同一なりと知るべし。

一、甲は乙の別號、若しくは前名と記する時は必らず、乙の條下を併見すべし。

一、本書中尚ほ誤謬の點尠からざるべく、這は大方の刪正を俟つて更に之を補正すべし。

一、卷末に附したる、浮世繪師早見表は全く、著者獨得創意のものにして繪師の生死、年代を知ると同時に十年毎に縦線をひきあるを以て、其年齡を速算し得べく且つ時代を同せる、繪師を速知するの便宜あり、固より紙面限りあるを以て一流の祖たるが如き重要なる、繪師のみを掲げたれども、其門生の如きは、其師と略ぼ同時なりと見て差支なし。

一、土佐光起狩野重信等の如きは、他の流派の畫師なれども、往々風俗繪に筆を染めたる故、便宜上此編に收錄せり、讀者之を怪む勿れ。

浮世繪師人名辭書索引

〔イ〕 一 一　爲 四　以 四　逸 四

〔ロ〕 蘆 四　路 四　魯 四　六 四

〔ハ〕 破 四　半 五　梅 五　繁 五　馬 六　蟠 六　晩 六　白 六　波 六　伯 六　拍 六

〔ニ〕 二 六　耳 六

〔ホ〕 北 六　芳 九　豐 一四　保 一七　房 一七　峯 一七　鳳 一七　卯 一七　墨 一七　抱 一七

〔ヘ〕 米 一八　片 一八　蓬 一八　邦 一八

〔ト〕 度 一八　東 一八　藤 一九　等 一九　道 一九　桃 一九　冬 一九　斗 一九　洞 一九

〔チ〕 長 一九　竹 二〇　忠 二〇　治 二一　直 二一　珍 二一　中 二一　朝 二一　釣 二一　稚 二一　蝶 二一　智 二一

〔リ〕
柳二一 立二二 流二二 龍二二 利二三
鄰二三 笠二三 里二三 綾二三 臨二三
驪二三 理二三

〔ヲ〕
鶯二三 應二三

〔カ〕
歌二三 勘二四 岳二四 翰二四 可二四
河二四 學二四 嵓二四 峨二四 夏二五
雅二五 額二五 寒二五 嘉二五

〔ヨ〕
洋二五

〔タ〕
探二五 戴二五 旦二五 兌二五 丹二五

〔レ〕
連二五 蓮二六 令二六 礫二六

〔ソ〕
宗二六 巣二六 孫二六 息二七 素二七
草二七 雙二七 聰二七

〔ツ〕
つ二七

〔ネ〕
年二七

〔ナ〕
内二九 南二九

〔ラ〕
雷二九 蕾三〇 藍三〇 蘭三〇

〔ウ〕
宇三〇 雲三〇

〔ク〕
俱三〇 具三〇 懷三〇 和三〇 關三〇
花三一 華三一 畫三一 寛三一 科三一
貫三一 括三一 冠三一 臥三一 鶴三一
傀三一 觀三一

〔ヤ〕
彌三一 野三一

〔マ〕
卍三二 万三二 萬三二

〔ケ〕
月三二 溪三二 源三二 景三二 蕙三三
元三三 慶三三 玄三三 桂三三 權三三
彥三三 兼三三

〔フ〕
文三三 武三四 富三四 藤三四 楓三四
聞三四

〔コ〕
國三四 廣四一 恒四三 光四三 五四三
香四四 江四四 湖四四 幸四四 高四四
吳四四 鴻四四 行四四 古四五 虎四五
孝四五 興四五 谷四五 弘四五 厚四五
工四五 耕四五

〔エ〕
榮四五 英四六 永四八 艷四九 益四九

易四九 驛四九 映四九 圓四九 盈四九
淵四九 燕四九 延四九 越四九

〔テ〕
貞五〇 田五一 天五一 鐵五一 定五一
傳五一

〔ア〕
安五一

〔サ〕
さ五三 三五三 簑五三 山五三

〔キ〕
玉五三 京五三 吉五三 幾五三 義五四
輝五四 龜五四 魚五四 鬼五四 吟五四
旭五五 金五五 菊五五 曉五五 久五五
堯五五 拱五五 休五五 喜五五 葵五五
巨五六 其五六 鏡五六 磯五六 錦五六
祇五六 基五六

〔ユ〕
友五六 又五六 祐五六 遊五七 有五七

〔メ〕
鳴五七 め五七

〔ミ〕
岷五七

〔シ〕
春五七 師六三 重六四 勝六六 秀六七
信六七 松六八 種六八 周六八 常六八
辰六八 俊六九 小六九 尙六九 蕉六九
守七〇 新七〇 如七〇 秋七〇 鉦七〇
鐘七〇 壽七一 桭七一 式七一 此七一
寫七一 實七一 叙七一 子七一 嘯七一
笑七一 耳七一 乘七一 上七一 襲七一
珠七一 至七一 舟七一 集七二 薪七二
拾七二 親七二 昇七二 章七二 色七二
眞七二 昌七二 紫七二 照七二 洲七二
紹七二 充七二 甚七二 猩七二 篠七二
審七二 湘七三

〔ヒ〕
美七三 百七三 筆七三

〔モ〕
茂七三 孟七三

〔セ〕
清七三 正七七 政七七 船七八 雪七八
泉七九 井七九 石七九 昔八〇 全八〇
盛八〇 赤八〇 詹八〇 善八〇 洗八〇
千八〇 蘚八〇 齋八〇 靜八〇 青八〇
晴八一 菁八一 生八一 川八一 仙八一

扇八一

〔ス〕

嵩八一　水八二　翠八二

浮世繪師人名辭書

桑原羊次郎編纂

一　蜂　姓は藤原多賀氏後に英氏、名は信香一に安雄、幼名猪三郎、助之進、又、次右衛門、朝湖、牛麿、曉雲、曉雲堂、一蜂閑人、翠簑翁、隣撫庵、隣濤庵、北窓翁、和央、和應、等の數號あり、大阪の產、初め狩野安信に學び、後一家を爲す書は佐々木玄龍に、俳歌は芭蕉に學びて共に盛名あり、寛文六年江戸に來り元祿十一年十二月故ありて三宅島に流さる後八丈島に移さる、寶永六年九月赦免享保九年正月十三日歿、七十一歲。

一　蝶　初名一蜂後二世一蝶、名は信勝俗稱長八郎栗餘と號す、又栗舍、六菓莖、容齋の號あ

り一世一蝶流島中に生れたる長男なれども故ありて家を出づ次子一蜩家を嗣ぎ名を改めて一舟と稱す、元文元閏十一月十一日歿、歲四十七。

一 蜩　一世一蝶の次男名は信祐、俗稱百松後に源內、湖窓翁、孤雲等の號あり、父一蝶の願により有馬侯の臣となる後一舟と改む。

一 舟　初代一蝶の次男一蜩の後名英家の二代目なり。

一 舟　一世一蝶門、一蜩の養子となり師家を嗣ぐ、名は信種一說に信景又潮窓、東窓翁と號す俗稱彌三郎、明和五年正月廿七日歿、七十二、英家三代目なり。

一 舟　淺田氏、明治。

一 川　英一蝶の孫、一蜩の男、俗稱新二郎名は信祐、宗澤、松下庵と號す、安永七年正月歿。

一 珪　英一川の男、名は信重、嵩谷に學ぶと云ふ、天保十四年十二月廿一日歿、八十五歲。

一 笑　高嵩溪の次子、英一珪の養子、名は信俊可主と號す後に英一笑と改む。

一 笑　宮川氏、名は安道、湖邊齋と號す。

一 蜂　一世一蝶の長男、二世一蝶の初名。

一 蜂　一世一蝶門人、俗稱彥助、師の歿後二世一蝶の初號を冒して英一蜂と號す、春窓翁とも號し別に一家をなす、寶曆十年四月廿八日歿、七十歲。

一 蜂　二世一蝶初め一蜓といふ、二世一蝶の初號より數ふれば三世なれども別家なれば彥助一蜂より數へて二世と稱せしが、天明八年六月十二日歿。

一水　一世一蝶晩年の門人、英氏本姓佐脇、名は道賢、字は子岳果々観又、中岳堂、東窓、一翠齊等の號あり、俗稱甚藏後に嵩之と改む、明和九年七月六日歿、六十六歲。

一蜓　二世一蜂の初名なり。

一蟬　高嵩谷門人。

一蜻　大村氏、名は信光、幼名民之輔後清吉郎二世嵩谷の子なり、英一笑の家を嗣ぐ後北町奉行組同心となりて、大村信三と稱す。

一九　駿河の人重田氏、名は貞一俗稱與七、幼名幾次郎、十返舍、十返齊、十偏齊、十偏舍の諸號あり、戲作の大家よく自作の草雙紙を書く、天保二年八月七日歿、六十八歲、膝栗毛の作最著る。

一昌　姓は紀氏、芳賀氏、玄益、崑山或は冥靈堂と號す、京師人、寶永四年四月廿八日歿、六十五歲、俳歌の宗匠にして傍ら浮世繪を書く。

一蕙　浮田氏、姓豊臣、名は公信後可爲と改め内藏允と稱す、浮田中納言秀家七世の孫なり京都に住す、一蕙資性豪俠氣節を尙ぶ嘗つて江戸にあり墨水の邊に僑居し昔男精舍と稱す、書を田中訥言に學ふ、安政年間幕府の嫌忌を受け囹圄に拘らる、安政六年十一月歿六十五歲、明治二十四年、正四位を贈らる。

一蕙齋　歌川芳幾の別號。

一指　永艃と同人なり小石堂、礫川堂等の號あり文化文政頃。

一泉　中氏。

一蹄　文化文政頃。

一近　歌川信一門或は狩野洞玉門

とも云ふ、俗稱中谷正近、明治年中神戸住。

一廣　歌川信一門人、前野氏後春亭と號す。

一扇　葛飾氏、文化頃。

一豐　歌川氏、國芳門人、玉池堂と號す、慶應頃。

一景　昇齋と號す、錦繪あり、明治頃。

一峯齋　馬圓の號。

一立齋　一世廣重、二世三世廣重、三人共に稱せしと云ふ。

一翠齋　繪馬屋額助。

一鼎齋　平安醉茶亭とあり。

一幽齋　一世廣重の壯時の號、文政十二年、一幽齋を改めて一立齋となる。

一遊齋　一世廣重の初號、一幽齋と同時に並用す又重宣も初めは此號を用ゆ。

爲一　北齋の前名。

爲一　近藤氏、北齋門人、尾州名古屋の人、嘉永頃。

爲一　露木氏、元と久保田常次郎東京音羽住、明治二十六年歿。

爲齋　葛飾氏、清水宗次、醉櫻樓と號す、大阪に僑居し後江戸に歸り住す、明治十三年横濱に歿す、六十歲なり、北齋晩年門人。

爲恭　岡田氏、冷泉三郎と稱す、京都人、初め狩野永岳門人後專ら古土佐畫を臨て技倆大に進む、弘化元年歿、六十七歲。

以重　岩佐勝次の孫、勝重の男なり陽雲と稱す、福井侯昌勝、宗昌、宗矩等に歷仕す、貞享頃歿す。

逸馬　葛飾氏、北馬門人、天保頃。

蘆雪　大阪の人、戲畫堂と號す。

蘆月　大阪の人、中川氏、明治。

蘆溪　大阪人、淺山氏、享和頃。

蘆洲　大阪の人、青陽齋、狂書堂、蘭英齋と號す淺山氏、文化頃。

蘆水　鶴岡氏、天明年間、隅田川兩岸一覽あり。

蘆國　大阪人、芦洲男、青陽齋と號す、役者書多し、文政頃。

蘆國　稻葉一勇齋、大阪住明治頃。

蘆舟　年恒門、後桂舟門、俗稱槇岡政直。

蘆計　今田氏、明治頃。

路眺　烏巷齋と號す。

魯石

六合庵　素璞の別號。

六甲　中井藍江門高間氏、大阪住。

破笠　一蝶門人、伊勢の人、小川氏、名は觀、諱は倘行、字は一蟬、卯觀子、夢中庵、笠翁の號あり、俳歌を芭蕉に學び俳名宗有、宗宇、俗稱金彌後に平助、繪書の外髹漆に巧みなる事世の知る所なり、延享四年六月三日歿、八十五歲。

半山　大阪人、松川氏、翠榮堂と號す、繪本多し、文化頃。

半兵衛　吉田氏、京都人、一時の流行家なり書名詳ならず、好色訓蒙圖彙あり、貞享寶永頃。

半兵衛　松好齋と號す、寬政頃。

梅溪　息延とも常正風。

梅雪　大阪人、芳梅門人、歌川氏明治頃。

梅雪　岩井氏、明治ころ。

梅信　服部氏、祇園社の朝比奈草摺引の額を書く、扁額軌範に出づ、延享頃。

梅英　大阪の人、芳梅門人、歌川氏、明治ころ。

梅素　宮城玄魚、明治十三年二月七日歿、六十四歳。

梅里　歌川氏。

梅童　三代國政門人、政信。

梅章　三代國政門人、國雪。

梅莚　三代國政門人、政貞。

梅軒　市川氏、明治ころ。

梅園　梅園女史とあり、文化文政頃。

梅翁軒　一に梅峯軒、長谷川永春の號、寶歴頃。

梅峯軒　長谷川永春の號。

梅祐軒　近藤勝信。

梅林堂　宮川風、觀無常の圖あり。

梅南堂　姓氏未詳。

楳堂　三代國政門人、政久。

繁昌　北尾重政の別號。

繁倘　京都祇園社に同社並に旅所の額あり、延寶頃。

繁信　岡山氏。

馬圓　大阪人、一峯齋と號す、寛政頃。

馬光

晩器　美人詩興動の圖あり。

白峨

白瑛　葛飾氏、北齋門人、俗稱福知氏、江戸人、文政頃。

白嶺　安士氏、明治頃。

白山人　北齋門人、北爲の號。

波舟　三輪氏、明治。

伯照軒　松野親信の別號。

拍笑軒　松野親信の別號。

蟠桃　明和頃。

蟠龍軒　武鄕隱士とあり、享保頃。

二蝶　聽雪二蝶。

耳鳥齋　本名は松屋平三郎、大阪住家產を蕩盡して骨董商を營み傍ら漫畫を能くす、義太夫に

通達し松平を以て著る、又戯作を能せり、寛政五年に歿すと傳ふ。

北齋　父は中島伊勢、徳川家御用の御鏡師、母は吉良上野介義央の臣、小林平八郎の孫女なり、生地葛飾郡に屬せるを以て葛飾を以て氏とす、幼名時太郎後に鉄藏次ぎて八右衞門と改む、初め剞劂を學ふ、安永七年十九歳の時、勝川春章の門に入り浮世繪を學ぶ、仍りて勝川春朗と號す、自作の草雙紙あり、宗理、可候、雷斗、雷震、戴斗、辰政、辰齋、爲一、畫狂人、月癡、卍翁、群馬亭、百琳宗理、等の號あり、嘉永二年四月十八日歿、九十歳、北齋生涯居を移すと九十三回其他逸話頗る多し、長男多吉郎、加瀨氏の養子となり、蕉門の宗匠となり、椿岳庵木峩と號す、長女美與は門人重信に嫁し、次女鉄女は早世、三女榮女は父に學びて頗る書を能くす、等明に嫁したれども離別して家に歸り、北齋を助けて一世を終ふ。

北齋　眞崎神社の杉戸に氏名あり何人なるかを知らず嘉永頃。

北齋　橋本庄兵衞、北齋の號を讓り受けて、北齋と落欵す。

北齋　橋本庄兵衞の養子も亦北齋と稱せしが、印章は荷萩園主人とあり。

北岱　葛飾氏、盈齋と號す、北齋壯時の門人。

北馬　本姓星野氏、俗稱有阪五郎八、幕府御家人の隱居なり、彩色巧者なるを以て、特に谷文晁の助手となれり、駿々亭又は駿々齋と號す、左筆を能

くす、北齋門人、弘化元年八月六日歿、七十四歲。

北馬 蹄齋北馬の子、二世北馬なり。

北溪 岩窪氏、名は辰行、俗稱初五郎後に金右衞門、拱齋又は葵園と號す、其家魚を賣るを以て人呼びて魚屋北溪といふ狂歌摺物多し、初め狩野養川院門人後に北齋門人、嘉永三年四月九日歿、七十一歲、

北泉 葛飾氏、俗稱遠藤伴右衞門戴岳斗圓樓と號す、北齋門、文化、文政頃。

北嵩 葛飾氏、本姓島氏、名は重宜、蘭齋、醉醒齋又は閑々樓と號す、北齋の門人、晚年浮世繪を廢し漢書を書き、東居と號す、文化頃。

北壽 葛飾氏、北齋門、名は一政、昇齋、形工亭、昇堂等と號す最も浮繪に長ず、山水の書法に於て一機軸を出せり、文化文政頃。

北雲 葛飾氏、北齋門、俗名久五郎、大工を業とす、東西南と號す、文化、文政頃。

北周 葛飾氏、俗稱金澤彌二郎、北齋門人、文化、文政頃。

北鵞 葛飾氏、北齋門、本姓三田氏、小三郎と云ふ、名は五淸抱亭又は方亭或は卍樓と號す信州の產にて江戶に來り、北齋門となり後に鄕里に歸りしと見ゆ、天保頃、

北廣 葛飾氏、北齋門、畫狂人と號す、大阪の人。

北洲 葛飾氏、北齋門、雪花亭又は春好齋と號す、大阪人。

北明 葛飾氏、北齋門、九々唇と號す、文化、文政頃。

北洋 葛飾氏、北齋門、千鶴亭と

號す、大阪人。

北爲　北齋門、深尾氏、白山人と號す、明治廿六年頃、深川に住す。

北水　葛飾氏、俗稱池田屋久三郎後に淺右衛門と改名す、北齋門人、自惚山人と號し、戯作自書あり、晩年天文暦學を教へむとて諸國を巡遊し終る所を知らず。

北龍　葛飾氏、北齋門人、文化。文政頃。

北雅　葛飾氏、北齋門人、俗稱山本妙之助、初め富川吟雪に學びて、二世吟雪と號す、後北齋門となりて北雅と改名す、文化、文政頃。

北園　葛飾氏、北齋門、文化、文政頃。

北英　北齋門人、大阪の人、雪花樓と號す。

北一　葛飾氏、北齋門、工形齋と號す。

北昆　葛飾氏、北齋門、如蓮と號す、文化頃。

北牛　葛飾氏、北齋門、江戸人。

北鷹　葛飾北齋門、壽々北鷹、名古屋の人。

北秀　葛飾北齋門成一とも、名は經正、江戸人。

北敬　葛飾北齋門、春陽齋と號す。

北僊　葛飾北齋門書桂老人卍齋と號す、江戸人。

北目　葛飾北齋門、草雙紙多し。

北輝　北齋門人。

北嶺　箱舘の人。

北岺　北齋門人、九々居とも號す。

北岳　葛飾北齋門、盈齋と號す。

北鼎　葛飾北齋門。

北亭　北亭爲直筆とあり。

北亭　牧墨僊の一號。

北濤　葛飾派。

北紫　葛飾派。

北雄　葛飾派、嶺齋と號す。

北鳴　葛飾氏、卯亭と號す。

北麿　喜多川氏、歌麿門人。

北溟　生田氏、明治。

北梅　稲野年恒の別號。

芳龍　懷月堂風、上柿氏。

芳政　國芳門、一天齋、又靜齋と號す、俗稱政次郎。

芳勝　國芳門、歌川氏、初め石渡庄助と云ふ後勇助と改む、一勢齋又は一秀齋と號す、清元を好む。

芳艶　國芳門、甲胡萬吉、一英齋と號す、慶應二年六月廿二日歿、四十五歳。

芳艶　國芳門、三輪氏、一榮齋又は二世芳艶と號す。

芳鶴　歌川氏、國芳門、俗稱長次郎、一聲齋と號す、弘化頃、三十三歳歿。

芳玉　歌川氏、國芳門、後是眞門タマ女、江戸日本橋住、一輝齋、一耀齋、一掌齋と號す、明治三年歿、三十五歳。

芳丸　歌川氏、國芳門、俗稱伊藤鶴吉、一圓齋と號す、明治四十年五月十九日歿六十四歳。

芳綱　歌川氏、國芳門、一登齋又は一渡齋。

芳員　歌川氏、國芳門、俗稱一川次郎兵衞、一壽齋と號す。

芳雪　歌川氏、國芳門、俗稱幸太郎、大阪人、江戸住、一嶺齋南粋と號す、文久年間歿。

芳基　歌川氏、國芳門、一亭齋と號す。

芳豊　歌川氏、俗稱福山兼吉、初

め三世豊國門後に國芳門、一毫齋、一龍齋と號す、慶應二年四月廿四日歿、三十七歳。

芳信　歌川氏、國芳門、一禮齋と號す。

芳房　歌川氏、國芳門、一寶齋又は一芳齋に作る、萬延元年六月十日歿。

芳爲　歌川氏、國芳門、一集齋と號す。

芳重　歌川氏、天保頃。

芳形　歌川氏、國芳門。

芳宗　始め國芳門後に芳年門、新井周次郎或は曰く、松五郎、一松齋と號す、新聞挿繪、錦繪。

芳宗　初代芳宗の子、初め芳年の門に入り、年雪と號し、後に二世芳宗と號す。

芳藤　歌川氏、國芳門、俗稱西村藤太郎、一鵬齋と號す、手遊繪、武者繪、切組畫に長ず、明治二十年歿。

芳貞　歌川氏、國芳門、一葉齋又は一素齋に作る、

芳兼　歌川氏、國芳門、一好齋後に田蝶梅月と號す。

芳滿　歌川氏、俗稱犬飼健吉、通稱松屋平兵衞、嘉永元年、國芳門となる、一教齋又は一散齋に作る、別號圓阿彌、俳名唯紋、明治四十二年二月十八日歿、享年七十三歳。

芳幾　歌川氏、國芳門人、俗稱落合幾次郎、朝霞樓、蕙齋閑人一蕙齋、惠阿彌等の號あり、明治三十七年二月六日歿、七十二歳。

芳春　初め柳川重信門後に國芳門人、俗稱生田幾三郎、初名一物齋芳晴と云ふ、一梅齋、朝

香樓の號あり、明治廿一年二月五日歿、六十一歲。

芳廣　歌川氏、國芳門、俗稱重兵衞、一張齋と號す、明治十七年四月十八日歿、四十七。

芳年　國芳門、月岡氏、俗稱米次郎、祖父は月岡雪齋或は曰く雪齋の養子なりと、嘉永三年國芳の門に入る、一魁齋、玉櫻樓等の號あり、後畫風を變じ、大蘇芳年と號す、錦繪多し、明治廿五六月九日癲狂病にて歿、五十四歲。

芳彥　歌川氏、國芳門、一元齋。

芳景　國芳門、俗稱後藤德次郎、京師人。

芳景　芳瀧門、安政四年歿、大阪住。

芳州　國芳門、一に洲に作る。

芳𦽳　國芳門、松本彌三郎、初め初代廣重門後に國芳門、一雲齋、一俠齋と號す、狸を畫くに巧なり、狂歌名、遊狸庵都々美、晚年名古屋に赴き陶畫を描く、明治廿三年八月十四日歿、五十三歲。

芳仙　國芳門、一神齋。

芳桐　國芳門、一鳳齋と號す。

芳邦　國芳門、歌川氏、靜齋と號す。

芳豐　國芳門、俗稱武部氏か。

芳谷　國芳門。

芳仲　國芳門、一に芳中に作る。

芳盛　國芳門、歌川氏、俗稱三木作藏、傍ら南畫を描く、一時官途にあり、後橫濱に移り貿易畫を描く、明治十八年十月五日歿、五十五歲。

芳盛　芳盛門人、初め歌川國晴といふ、後二世芳盛と改む、俗

稱正木福松、一光齋と號す。

芳梅 國芳門、歌川氏、俗稱中島藤助、大阪人、一鶯齋と號す。

芳柳 國芳門、横濱に住す、後洋書家となる門人多し、明治。

芳虎 歌川氏、俗稱笹本辰五郎或は曰く嘉藏、國芳門なるが、同國芳の十三回忌に故あつて同門を斥けられ、爾後猛齋と號せり。

芳國 國芳門人、俗稱野村與七、京師人、

芳國 芳梅門人、野村氏、一陽亭後に笑翁と號す、大阪住。

芳國 野村芳國の男、大阪住。

芳松 國芳門、歌川氏、俗稱阪本鹿造。

芳秀 初め國芳門後に容齋門、歌川氏、一旭齋雪窓と號す、一種の奇人。

芳英 國芳門、歌川氏、一春齋と號す。

芳榮 國芳門、歌川氏、一猫齋と號す。

芳近 國芳門、歌川氏、一速齋或は一蓮齋と號す。

芳鷹 國芳門、歌川氏、一峯齋と號す。

芳直 國芳門、歌川氏、一盛齋又は一成齋と作る。

芳富 國芳門、歌川氏、一藝齋と號す。

芳里 國芳門、歌川氏、一葉齋と號す。

芳照 國芳門、歌川氏、一春齋と號す。

芳納 國芳門、歌川氏、一登齋と號す。

芳久 國芳門、歌川氏、一長齋と號す。

芳辰　國芳門、歌川氏、一雷齋と號す。

芳明　國芳門、歌川氏。

芳清　國芳門、歌川氏。

芳忠　國芳門、歌川氏。

芳鳥　國芳の長女、歌川氏、一燕齋。

芳子　國芳次女。

芳影　國芳門。

芳信　芳梅門、一瓢亭、大阪住。

芳瀧　歌川氏、一默齋と號す、芳梅門、俗稱中川常次郎、大阪人。

芳秋　國芳門、阪本氏、嘉永頃、京師人。

芳豐　武部芳豐男、後に西山寛瑛門と云ふ、秋畦と號す。

芳重　歌川氏。

芳信　田中益信門人歟、安永頃。

芳麿　落合芳幾の男、大正三年九月廿九日歿、三十餘歲。

芳洲　芳峰門、井上氏、京都、明治、前揭芳州と同人歟。

芳峯　芳梅門、武部氏、旭齋と號す、胡蝶樓と號す、大阪住。

芳翠　芳柳門、山本氏、別に羽山芳翠あり、明治。

芳翠　芳柳門、歌川氏、本姓羽山氏、明治。

芳齋　歌川氏、芳柳門人、明治。

芳光　芳瀧門、後藤芳景の弟、

豐信　石川氏、俗稱糠屋七兵衛、始め西村孫三郎、重信といふ明篠堂秀葩と號す、西村重長門人、紅書多し、享保十六年頃、重信と號し、寛延元年頃より、豊信と號せしとの說あり、天明五年五月廿五日歿、七十五歲。

豐信　西川氏、菊水と號す、享保頃。

豐信　川枝氏、西川祐信風の美人書あり、京師の人、享保頃。

豐信　歌川氏、豐春風なり、一龍齋と號す。

豐房　鳥山石燕の名。

豐雅　石川氏、豐信男歟、書風、春信に似たり、天明頃。

豐章　歌麿の初名。

豐章　勝川氏。

豐春　鳥山石燕豐房門人との說、眞に近し或は石川豐信門人との說もあり、俗稱歌川庄三郎但馬屋と云ふ、歌川家の祖なり、本產は豐後臼杵の產なり後新右衞門と改むと、薙髮して、一龍齋潛藏と云ふ、又た潛龍齋と號せしと、文化十一年正月十二日歿、八十歲、浮書の祖なりと。

豐春　歌川氏、二世豐春と稱す、錦繪ありと、東都押上春慶寺初代豐春の面碑に二代豐春とあると同人ならん、天保頃。

豐春　歌川豐春に關係なくして、文政の始め、豐春と稱する者あり、草字銘にして、書は歌川豐春に異なれり。

豐久　豐春門、歌川氏、寬政頃。

豐丸　豐春門、歌川氏、壽亭と號す、寬政頃。

豐麿　歌麿風。

豐秀　豐春門、歌川氏、京師人、寬政頃。

豐秀　一世豐國門、右と同人にして後に、豐國門となりしならん。

豐年　一世豐國の男、文化頃、

豐國　豐春門、歌川氏、本姓倉橋

氏、名は熊吉、後に熊右衞門一陽齋と號す、墨と紫のみにて書きたる錦繪を工夫せり、又役者の似顏に長ず、豊國の錦繪と繪本の刊行甚だ多く、當時門前市を爲して、注文引きも切らず、其盛況想見るべく、之に比肩するものなかりしと、文政八年正月七日歿、五十七歲。

豊國　一世豊國門人、俗稱源藏、始め國重後に豊重、二世豊國と號す、本郷春木町に住す、人呼びて本郷豊國と云ふ、一龍齋、一瑛齋、後素亭の諸號あり、文政九年より天保三年頃迄自ら二世豊國と名乘る、然るに同門の物議を招き、再び國重と改む、天保六年十一月一日歿、五十九歲。

豊國　一世豊國門、角田氏、俗稱庄藏後に省藏と改む、天保四年、英一珪の門に入り、英一蝶と號す、後豊國門に入り、國貞と號す、師歿後、天保十五年正月、自ら二世豊國と改む、源藏豊國を二世とせば實は三世なれども、同門人中に源藏の二世たるを削りたるが故に、國貞の二世豊國たるを承認せしならん、香蝶樓、五渡亭、一雄齋、富望山人、富眺、月波樓、北梅戸、桃樹園、一陽齋等の號あり、晩年琴雷舍、喜翁等の號あり、元治元年十二月十五日歿、七十九歲、香蝶樓の樓字を棲字に作りたるものあり、棲字却つて正しとの說あれども、間違にして矢張、樓字ならざれば意味を爲さず、香蝶樓と落款せるは、恐らく代筆より生せ

る誤字ならん。

豐重　二世豐國、即ち源藏豐國の前名。

豐國　本姓は竹内氏、國政三世を稱し、後に二世國貞と號し、最後に四世豐國となる、明治十三年歿、五十八。

豐廣　豐春門人、俗稱岡島藤次郎一柳齋と號す、草筆の墨書を板行して張交書となす等此人に始まると云ふ、豐國と比肩して、實豐春門下の雙璧なり文政十一年五月廿三日歿、六十歳。

豐清　豐廣の男、父及び豐國に學ぶ、俗稱金藏早世す、寛政頃。

豐熊　豐廣の孫、俗稱熊吉、文化頃。

豐宣　三世豐國の孫、歌川國久男俗稱勝田金太郎、二世香蝶樓又た四世一陽齋と號す、明治十九年八月十日歿す、二十八歳。

豐庵　草雙紙あり、文化頃。

豐長　天野氏。

豐圓　一楊齋とあるは豐國に似たる贋作名ならんと。

豐政　月下園と號、天保頃。

保國　橘守國の男、後素と號し、法橋に叙せらる、京師の人、寛政四年歿、七十六歳、書本多し。

保之　京師人、讀本、文政頃。

保明　歌川風、明治。

保一　歌川風、明治。

房信　富川氏、吟雪と號す、俗稱山本九左衞門と云ふ、鳥居風なり、繪草紙問屋の主人なり家衰へて後繪師となる、門人山本妙之助、二世吟雪と稱せしが、後北齋の門に入り、北

雅と號せり、寛保、安永頃。

房信 保雪房信と落欵す、印には藤原とあり。

房種 村井氏、俗稱靜馬、一笑齋又た一瓢齋と號す、歌川風、明治。

峯麿 歌麿門人。

鳳山 常正風。

卯観子 小川破笠。

墨僊 初め歌麿門の時は歌政と云ふ後北齋門俗稱牧助右衛門、北亭、斗圓楼、百齋、月光亭と號す、畫本多し、文化頃、歌政を見よ。

墨山 北齋門人、北堂と號す、大阪人、文化、文政頃。

墨流軒 墨坂とせる印章なり。

墨江齋 雪昇門か印に陽墨とあり。

抱一 酒井抱一上人、畵名屠龍とあるは、米國ボストン博物館に楓窓屠龍として。豊春に見まがう者あり、蓋し抱一上人が豊春に師事せられし時の作ならん、文政十一年十一月廿九日歿、六十八歳。

蓬洲 神谷氏、大阪產、京都に轉住して、春川五七と名乘る、自作、自畵、自彫なり、天保初年歿、五十二三歳。

邦年 國利門、歌川氏、棋樹と稱す。

米作 田口氏、小林清親門人、明治。

片石 中井藍江門、木村氏、大阪住。

度繁 安度門歟、懷月堂度繁と落欵、正德頃。

度辰 安度門歟、懷月堂度辰と落欵、正德頃。

度秀 安度門歟、懷月堂度秀と落

歟。

度種　安度門歟、懐月堂度種と落歟。

東波軒　京師人、元祿頃。

東野　大阪の人、民聲と號す、文化頃。

東金　神田明神に富士まき狩の圖あり、文政頃。

東秀　美人畫あり、文化頃。

東山　晴雲齋と號す、人物大阪の人。

東山　石垣氏、明治。

東岳　初代廣重門、新莊氏。

東艶齋　花翁、明和、安永頃。

東愚齋　美人薰衣の圖あり、日本東愚齋長春筆とあり。

東里　細川浪次郎、九陽亭と號す幕府の士、重政門人。

東嬰子　前田氏、京都住、享保頃。

東籬　寛保頃。

東牛齋　吉田蘭香。

藤麿　歌麿門人、喜多川氏、名は芳州、紫霞齋と號す、北齋壯年の畫風に似たり。

藤水　羽川珍重門、羽川を稱す、享保頃。

藤信　山本氏。

等伯　加賀の人、長谷川氏、法眼に叙せらる、雪舟五世の孫と稱す、慶長。

等琳　堤流の祖、堤孫二、世に聾等琳といふ、享保、天明頃。

等琳　二世或は三世なり、月岡氏俗稱吟二、始め秋月、後に雪山、深川齋法橋に叙せらる、幟畫、額畫の名手、寛政、天保頃。

等明　三世堤等琳門、南澤吉之助北齋娘、榮女を娶り後離別。

道麿　歌麿門、喜多川氏、天明頃。

道信　西川道信筆とあり、祐信門歟。

桃溪　丹羽氏、名は元國、靖中庵と號す、大阪人、寛政頃。

桃川　大阪人、優遊齋と號す、享和頃。

冬信　日本戯畫とあり。

斗圓　葛飾流。

洞玉　小松氏、大阪住、明治。

長春　宮川氏、本姓尾藤氏、尾州海西郡宮川村の人、俗稱喜平次一に長左衛門、江戸に住す日光修繕の砌、狩野家の手傳を勤めしが、長春の子長助が賃銀のことに付、狩野氏を及傷の事あり、寶暦二年十一月十三日歿、七十三歳。

長春　長谷川氏、俗稱典之丞、雪舟の後孫と稱す、貞享頃。

長春　日本東愚齋、長春筆と落欵す。

長陽堂　懐月堂安度門人、長陽堂安和と落欵。

長秀　大阪の人、似顔畫、天保頃。

長秀　有樂齋と號す、役者繪草雙紙あり、安永頃。

長信　狩野直信の五男、源七郎、休伯と號す、同姓中、最も早やく江戸に住す、承應三年十一月歿、七十八歳。

長丸　桂向亭と號す、享和頃。

長喜　鳥山石燕門人、百川氏、榮松齋と號す、又詠松齋とも、始め子興といふ、享和の頃、長喜と改む。

長松　一樂齋と號す、榮松齋長喜門人、天保頃。

長龜　宮川氏、長春の弟、又は子なりと。

長風　送月亭。

竹齋　一世國直門人、深澤氏、武州粕壁の人、竹齋龍子といふ。

竹窓　英山風。

竹葉　三世豊國門人、長谷川氏、翠軒と號す、明治。

竹馬　文化頃。

竹麿　歌麿風。

竹溪　中江藍江門、菊川氏、大阪住。

竹波　尾竹氏、明治。

忠兵衞　北村氏、京師清水堂に末吉船の額ありと、扁額軌範に出づ、寛永頃。

忠兵衞　京師の人、享保二十年、光琳道しるべあり野々村氏歟。

忠七　繪菱氏、京師人、畫本あり享保。

忠國　田代氏。

忠義　日高氏、常正風。

忠春　鳥居派、初代淸信門人、淸忠に學ぶ。

治信　杉村氏、古今男といへる繪本あり、天和頃。

治明　瀨尾氏、名は文五郎後に國保と改む、明治。

治兵衞　野々村氏、繪本多し。

直政　國直門人、歌川氏、天保頃。

直貞　國直門人、歌川氏、天保頃。

珍重　羽川氏、武藏埼玉の人、俗稱大田辨五郎、本姓は眞中氏名は元信或は沖信鶺鱗堂或は繪情齋と號す、晩年三同宜觀居士と號す、鳥居淸信門人、寶曆四年七月廿二日歿、七十六歲。

中和　西村氏、名は士達梅溪と號し、法橋に叙せらる、京師人寛政、文化頃。

朝湖　英一蝶の前名。

釣雪齋　川又常正の別號。

稚龍　明和ころ。

蝶圓　元治、慶應。

智角　三河國人、二南齋、遊書齋の號あり、俳句を松月堂不角に學び、俳書を能くす、寶曆頃。

柳郊　重政門人、北尾氏、式上亭又は龍向齋と號す、享和頃。

柳谷　春章門人、烏越藩中の人、初め勝川春喬と稱せしとの説あれども詳ならず、菱川氏、丹靑齋又は撨者と號す、文化頃。

柳川　英山風、文政頃。

柳祥　芳柳門人。

柳靜　芳柳門人。

柳秀　芳柳門人。

柳雪　芳柳門人。

柳義　芳柳門人。

柳枝　明和頃。

柳村　小倉氏、西洋畫風の風景版繪あり、明治。

柳洲　德永氏、明治。

柳子軒　菱川師保。

柳月子　享和頃。

立圃　野々口氏、諱は親重、松翁と號す、俗稱紅屋庄右衞門、一に市兵衞又た次郎左衞門、丹後宮津の人、後に京都住、歌を烏丸光廣卿に、俳歌を松永貞德に、書道を尊朝法親王に、繪畫を探幽に學び傍ら浮世繪を畫く、師宣に先たつ事廿五年、岩佐又兵衞と同時なり、寛文九年九月三十日歿、七十一歲。

立祥　二世廣重の前名なり、又喜齋と號す。

立　齋　一世廣重、二世廣重、三世廣重共に立齋と號せり。

立好齋

立　政　一容齋と號す、大阪の人、人物畫あり。

流　宣　師宣門、石川氏、俗稱伊左衞門、大和耕作繪抄あり、又流舟とも云ふ、元祿頃。

流　舟　石川流宣。

流光齋　役者畫、如圭の號文化頃。

龍　女　山崎文兵衞の娘、菱川師宣門人、享保頃。

龍　水　勝間氏、諱は定安、新泉と號す、池永道雲に學んで、篆刻を餘事とす又俳諧に長ず、色摺の祖、明和、享保頃。

龍　子　竹齋庵と號す、歌川氏、文化頃。

龍　淵　中江藍江門人、水尾氏、大阪住。

龍向齋　草雙紙、文政頃、柳谷と同人ならん。

龍雲齋

利　信　奥村氏、政信門又は男と云ふ鶴月堂文全と號す、享保。

鄰　松

笠　翁　小川破笠を見よ。

里　鳳　松野親信風、增野氏、享保元文頃。

里　風　東川堂と號す、享保、元文頃。

綾　岡　文久頃。

臨江樓　歲亭と號す、歌川風。

驪龍亭　王成と云ふ、文化頃。

理兵衞　山本氏、西京北野に此人の畫たる額あり、寛永頃。

鶯　齋　國芳門人、梅の本と號す、嘉永、安政頃。

應　爲　葛飾北齋の娘、美人畫に巧

なり、天保、慶應頃。

應昇

歌麿　喜多川氏、名は豊章、鳥山石燕門人、俗稱紫屋勇助と號す、俳名筆の綾丸と云ふ、美人畫の名手なり、文化三年九月二十日歿、五十三歳。

歌麿　初め二世戀川春町といひし人なり、初代歌麿の歿后其妻に入夫して、二世喜多川歌麿を襲名す、梅雅堂と號す、俗稱鐵五郎、文化、文政頃。

歌重　一立齋廣重の狂歌名。

歌政　歌麿門、牧墨僊の前名、名古屋の人。

歌政　北齋門人、沼田氏、諱は正民、俗稱半左衛門、月齋荷舟又は凌雲峩眉丸と號す、名古屋の人、元治元年六月廿九日歿、七十八歳、峩眉丸を見よ。

歌政　埴原宮内、月岬と號す、三代歌政と號す、尾州藩士。

歌舞妓堂　艶鏡の號。

勘兵衛　井上氏、京都祇園社に額あり、寛文頃。

勘助　望月氏、京都祇園社に額あり、大阪人、享保頃。

勘左衛門　鳥居清信作、本朝廿四孝に此名あり、貞享頃。

岳亭　北溪門人、菅原姓、平田氏なり、八島氏に養はれて八島姓を冒す、俗稱斧吉又は春信後ち定岡と改む、字は鳳卿、丘山、南山、陽亭、黄園、梁左、岳鼎、神歌堂と號す、戯作名は南山五岳老人、狂歌名は堀川多樓と稱す、八十餘歳にて、明治初年に歿すと。

翰雪　河合氏、京都祇園社に額あり、寛文頃。

可庵 喜多氏、武淸、五淸堂、一柳齋と號す、俗稱榮之助、字は子愼、江戸の人、谷文晁に學ぶ、安政三年十二月歿、八十一歲。

可候 北齋の戲作名、又書名。

可麿 歌麿門人、喜多川氏、享和頃。

可爲 一蕙を見よ。

可笑齋 勝川春英門、春扇の別號。

可雅賤人 稻野年恒。

可信 延享頃。

河末軒 石川流宣の別號。

學古叟

嵩松 中江藍江門、大阪住。

峩眉丸 姓は沼田、名は政民、字は士彜、通稱を半左衞門と云ふ凌雲或は月齋と號す、尾州藩士、初め牧墨僊の門に入り、又歌麿の門に入り、二世歌政と號す、北齋が名古屋滯在中更に其敎を受けたり、後年浮世繪を廢す、元治元年六月廿九日歿、七十八歲、長文齋の印章を用ひたるもの有。

夏龍 肥前榮城周遊齋とあり。

雅信 豊川氏。

雅樂信 鳥文齋と落欵せるあり、榮之の門葉ならん。

額助 繪馬屋額助と落欵す、英一翠又は嵩濤と號す、狂歌師にして、自書讃多し。

寒和 祐信風、大瓢寒和とあり。

嘉陵 景文門、上松氏、尾州笠寺の人、天保頃。

洋堂 大阪の人、讀本挿繪。

探月齋 大阪人、讀本挿繪、享和頃。

探景 淸親門人、俗稱井上安治、山水錦繪、明治。

戴斗 北齋の前名。

戴斗　北齋門人、俗稱龜屋喜三郎吉原引手茶屋の主人なり、北齋より、戴斗の名を讓らる、玄龍齋、米花齋と號す、後大阪に至り、偽りて自ら北齋と稱す、人卑みて犬北齋又は大阪北齋と呼べり、多く葛飾北齋又は北齋と擬名せし故混雜せるものあり。

戴一　北齋門人、葛飾氏、江戸住。

戴璪　北齋門人、名古屋の人、文化、文政頃。

戴岳　北齋門人、北泉の別號。

且上老人　石川豊信門人歟、漫畫獨稽古あり、天保頃。

兌候　坂本氏、江戸の人、寶曆十年繪本逢萊ちごあそびあり。

丹次郎　中島氏、大阪住、享保頃。

丹涯　安政頃。

連山　連山女史とあり文化文政頃

蓮之　奥村政信風、天明頃。

令之

礫川亭　小石堂一指の號。

宗理　俵屋氏、百鄰と號す、宗理三世なり、寶曆。

宗理　北齋の前名、百鄰宗理の名を繼ぎ、菱川宗理、又た百琳宗理といふ、宗理四世なり。

宗理　北齋門、俗稱宗二、宗理の名を讓られ、俵屋宗理といふ後に菱川と稱す、宗理五世なり、寛政、文化頃。

宗政　芳宗門人、一松齋と號す、明治。

宗久　芳宗門人、明治。

宗成　芳宗門人、明治。

宗秉　芳宗門人、新聞挿繪あり、明治。

宗正　芳宗門人、明治。

宗信　月岡雪鼎門、桂氏、俗稱源

吾、大阪人、法橋に叙す、文化、弘化頃。

宗景 曾谷氏、菱川派。

宗宇 小川破笠の俳名。

宗園 加保茶元成の書名、書風は友禪を模せしと見ゆ。

巢兆 谷文晁門人、建部氏、名は英親秋香庵又た菜翁と號す、武藏千住驛の人なり、後に藤澤に住す、其密書は應擧に似又蕪村の書風に倣ひ、書上俳句を賛するあり、尤も俳歌に長じ世に名あり、故に書名却て之が爲に掩はる、文政十年十一月歿。

孫兵衛 菱川氏、近江八幡町、日觸八幡社の献額、西村船の圖に奉掛御寶前、正保四年丁亥三月吉日、安南國居住、西村太郎右衞門、菱川孫兵衞筆とあり。

息延 梅溪と號す、常正風。

素璞 六合庵と號す。

素山 素山女とあり、姓氏不詳。

素堂 西山宗瑛門、後に稻野年恒門、槇岡恒房、明治元年生、奈良市。

素湁 礫川亭、文政頃。

草偃 佐久門氏、松村呉春門人、京師人、文化十二年歿。

草華亭 雪鼎門人歟、大阪住。

雙鶴 溪錦齋と號す、風畫巧なり大阪の人、天保頃。

聽鄉 長丘散人とあり、美人繪に巧なり。

つる 雪鼎風、稻垣氏。

年晴 芳年門人、野阪氏、明治。

年麿 芳年門人、布施氏。

年麿 歌麿門人。

年景 芳年門人、後藤氏、旭齋と

號す、大阪人、明治。

年次 芳年門人、中山氏。

年秀 芳年門人、明治。

年豐 芳年門人、明治。

年明 芳年門人、明治。

年延 芳年門、木藤氏、明治。

年廣 芳年門人、明治。

年種 芳年門人、尾崎氏、俗稱兼吉、玉容と號す、七寶燒の下書を善くす、明治。

年方 芳年門人、水野氏、俗稱粂次郎、應齋又は蕉雪と號す、芳年門下の秀才なり、明治四十一年四月七日歿、四十三歳門下に清方、輝方の名手を出す。

年恒 芳年門人、金澤人、本姓武部氏、後ち稻野氏の養子となる、通稱孝之、始め北梅又は可雅賤人と號す、大阪住。

年英 芳年門人、右田氏、梧齋と號す、錦繪新聞挿繪、明治。

年丸 國丸門人。

年丸 芳年門人、福島氏、明治。

年丸 喜多川氏、歌麿門人、寛政頃。

年一 芳年門、「晴齋或は靜齋と號す、」讀本挿畫、明治。

年光 芳年門人、大月氏、明治。

年長 芳年門人、明治。

年重 芳年門人、明治。

年參 芳年門人、小林氏、亭齋と號す、明治。

年親 芳年門人、明治。

年直 芳年門人、稻垣氏。

年保 芳年門人、明治。

年雪 芳年門人、新井芳宗の子、後に二世芳宗を稱す、明治。

年隆 芳年門人、高橋氏、明治。

年忠　芳年門人、島根氏、南窓と號す、明治。

年信　享保頃。

年信　三世豊國門人、後に芳年門人、山崎氏、通稱信二、大阪にては田口德三郎と稱す、名は勝洗、仙齋と號す、明治。

年清　芳年門人、明治。

年久　芳年門人、阪卷氏、明治。

年華　芳年門人、尾崎氏、明治。

年貞　芳年門人、山田氏、陽齋と號す、明治。

年季　芳年門人、藤田氏、明治。

年洲　芳年門人、明治。

年之　芳年門人、服部氏、明治。

年人　芳年門人、畫工柴田芳洲の妻、明治。

年擧　芳年門人、桂莊助、明治。

年昌　芳年門人、枝春齋と號す、明治。

年甫　芳年門人、武内氏、後に桂舟と改む。

年寛　芳年門人、西井氏、明治。

年章　芳年門人、中澤氏。

年邑　芳年門人、中村氏。

年香　芳年門人、明治。

年峯　芳年門人、筒井氏、明治。

年祥　芳年門人、枝氏、明治。

年玉　芳年門、阪卷氏、明治。

年基　芳年門人、高橋氏、大阪住明治、鈴木雷齋と同人。

年正　芳年門人、大阪住、明治。

年梅　年信初名なりと。

年葉　芳年門人、松井氏、明治。

年美　芳年門人、明治。

年雄　芳年門人、青木氏、明治。

年魚　芳年門人、齋藤氏、明治。

年重　芳年門人、明治。

年充　芳年門人、明治。

年茂 芳年門人、明治。

年芳 芳年門人、明治。

年甲 芳年門人、明治。

内膳 狩野松榮の門人、名は重信初め重郷一翁と號す、其子一渓重良亦た内膳と稱すと雖も重良は慶長四年の生なれば、慶長九年頃に描かれたる、豊國大明神臨時祭圖屛風の筆者内膳にあらざるや明なり、即ち此屛風の筆者は、重信内膳なり。

内匠 花田氏、岩佐又兵衞と同時。

南谷齋 奥村政信風。

南卜 靑井氏、大阪住、明和。

雷斗 北齋の別號。

雷斗 北齋門人、柳川重信、此名を繼ぐ、文政頃。

雷震 北齋の前名。

雷洲 北齋門人、安田尙義、俗稱茂平、文華堂と號す、又馬城と號す、銅版畫を善くす、能く蘭畫の法を得たり。

雷周 北齋門人、彥次郎、文化頃。

雷川 北齋門人。

雷齋 鈴木年基、後に蕾齋と改む。

蕾齋 鈴木年基。

藍江 蔀關月門人、中井養藏、名は直、字は伯養、師古と號す名所圖會の類を畫く、後畫風を變ず、天保元年七月廿四日歿、六十五歲。

蘭香 吉田氏、東牛齋、寬政十一年六月九日歿、七十五歲。

蘭石 中井藍江門人、山口氏、大阪住。

宇米麿 文化頃。

雲高 三世嵩谷門人、淸氏、嘉永頃。

俱良 中村氏、享保時代と見ゆ、

人物肥たる方。

具慶 住吉如慶の長子、名は廣純内記と稱す、天和三年江戸に來り、寶永二年四月歿、七十五歳。

懷月堂 安度、度種、度辰、度秀、度繁共に之を稱すれども、單に懷月堂と落欵するは、安度なり。

和元 羽川氏、珍重の門人、寛保頃。

和翁 菱川氏、本姓桑原氏、風葉軒、桑子師薫と落欵。

和夕 師薫和翁と同印なれは、其筆意の似たる點より推して、和夕、後には和翁となりしか又は師弟父子の關係あるか。

關月 月岡雪鼎の門人、蔀氏、名は德基、字は子温、俗稱原二寛政九年十月廿一日歿、五十一歳。

關牛 蔀氏、關月の男、名は德風字は子偃、蕙楊齋と號す、文化頃。

花翁 東艶齋と號す。

花曉堂 英一蝶の流派。

花麿 歌麿門人、享和頃、喜多川氏。

花蘭齋 後に二代目重政となる。

華月堂 坂井氏、名は文敏と云ふ、常行風。

華山 横山氏、名は一章、字は舜朗、初め岸駒に學び、又呉春の風を慕ふて人物に長ず、天保十年八月歿、五十四歳。

華嶽 小澤氏、名は定信、初め岸駒に學び、後横山華山に學ぶ京師。

畫狂人 北齋の一名。

畫讃人 北齋門人、文化頃。

寛雪 東柳齋と號す。

寛志 東燕齋と號す、畫風寛雪に似たり。

寛齋 森徹山門人、石田氏、俗稱尙太郎、名は公肅、字子容、長州萩の人、明治廿七年六月二日歿、八十一歲。

科混堂

貫牛 葛飾氏、北齋門、百齋久信の別號、文化頃。

括囊 大阪の人、錦繪あり、寛政頃。

冠斗齋 葛飾流。

臥遊齋 重政風、或は其門人歟、天明頃。

臥月 中井藍江門、佐竹氏、大阪住。

鶴僊齋 春曉の別號。

傀儡子 雙紙挿繪、寛政頃。

觀雲 喜多川菊麿の號。

彌四郎 三文字屋と號す、元文頃。

野亭 山田氏。

卍齋 北僊の別號。

卍翁 北齋老年の別號。

万月堂

萬里 三井氏、東京每日新聞の挿繪に執筆。

萬龜 石燕門人、燕壽亭とも。

月沙 鳥岩燕門人、天明頃。

月麿 歌麿門人、谷本氏、京師人讀本錦畫、文化頃。

月麿 北川菊麿の前名。

月齋 沼田峩眉丸の號、二世歌政と同人。

月齋 歌政の號。

月亭 兆齋と號す。

月光 草雙紙、文化頃、月光亭墨僊ならん。

月耕 尾形氏、俗稱正之助、櫻齋又名鏡齋と號す、自流なり、

錦畫、新聞挿畫多し、明治。

月柳　芳柳門。

月方　年方門人、平田氏、明治。

溪栖　北溪門人、葵園と號す、文政頃。

溪齋　英泉の號。

溪松　葛飾氏。

溪雪　葛飾氏。

溪林　葛飾氏。

源二郎　柳原氏、名は德基、明和、安永頃、蔀關月の初名ならん。

源三郎　奈良人、蒔繪師、元祿三年板人倫訓蒙圖彙を書く。

源章　駒井源琦門人、並河彥兵衞天保頃。

景堪　祐信派、井上氏。

景松　湖春亭と號す、貞景門人、草雙紙、慶應頃。

景久　芳景門人、明治頃。

景虎　芳景門人、明治頃。

蕙齋　鍬形政美の號。

蕙麿　歌麿門歟、喜多川氏、花麿と同人との說あり。

元信　羽川珍重門人。

元成　新吉原大文字屋市兵衞、狂名を加保茶浦成後に元成、書名加保茶宗園。

慶子　中村氏、歌舞妓役者女形、中村富十郎なり、英慶子といふ、慶子書譜あり、安永頃歿五十歲。

慶道　廣重書とあり、下に慶道の印あり。

慶仲　松井氏、長崎住、文化、文政頃。

玄魚　宮城氏、俗稱喜三郎、梅素と號す、浮世繪專門にあらざれ共挿畫奉燈の書多し、明治十三年二月七日歿、六十四歲。

桂舟　芳年門人、武内氏、初名年甫、明治。

權藏　梅屋と號す、寛政頃。

彦七　松田氏、京都人、明和頃。

兼彦　新聞挿畫、明治。

文調　石川幸元門人、岸氏、名は誠之、俗稱宇右衞門、一筆齋と號す、寛政八年歿。

文笑　文調門人、岸氏、明和頃。

文朝　柳氏、南龍齋と號す、似顔畫の畫上手、明和頃。

文朝　二世文朝、文化頃。

文橋　櫻井氏、草雙紙、寛政頃。

文鳴　應擧門人、奥村氏、俗稱順藏、京師人、名所圖繪あり、文政頃。

文齋　英泉門人、磯名氏、名は信春、俗稱大和屋由平、元長崎人、故に後年長崎に歸り、書肆を營む、大由と畧稱す。

文和　谷氏、安永頃。

文康　柳文朝門人、俗稱安五郎、人呼びて文康安といふ、錦畫文化頃。

文舟　芳延門人、歌川氏。

文延　芳延門人、歌川氏。

文輝　東街文輝とあり、京都人、文化、文政。

文川　文化、文政頃。

文波　鎌田巖松門人、林氏、大阪住。

文浪　歌麿風。

文陽　岡本豊彦門人、岩崎氏、天保頃。

文龍齋　細田榮之の師。

武重　國武門人、歌川氏。

武禪　本姓長田氏、俗稱墨江氏、初め船長を業とす、名は道寛字は子全、別に朦朧齋と號す、性甚だ畫を好み、月岡雪鼎に

學び參るに大雅堂の筆意を以てす、一生娶らず、文化七年七月歿、年七十三。

武光　國武門人。

武虎　國武門人。

武清　可庵の別號。

富信　宮川氏歟、歌川風、花川亭と號す、嘉永頃。

富雪　六花亭と號す。嘉永頃。

藤信　山本氏、春信風、明和頃。

楓齋　林基春門人、廣瀬小三郎、明治三年生、大阪。

聞雪　亭保頃。

國貞　一世豐國門人、角田氏、俗稱庄五郎又は庄藏後に省造と改む、三世豐國を見よ。

國貞　三世豐國門人、竹内氏、名は宗久梅堂と號す、初め一壽齋、三世國政、中ころ二世國貞となり、後に四世豐國となる、香蝶樓と號す、明治十三年七月二十日歿、五十八歳。

國貞　二世國貞門人、竹内氏、俗稱榮久、梅堂豐齋と號す、三世香蝶樓國貞と改む、大正四年、六十八歳にて存生。

國政　一世豐國門人、佐藤氏、俗稱甚助、會津人、俳優半身の似顔畫に長せり、草雙紙と讀本の類は書かず、文化七年十一月晦日歿、年卅八歳とあれども不詳。

國政　一世豐國門人、歌川氏、長文齋と號す、本姓山本氏、俗稱勇藏、二世國政と號す、後に二世國宗と改む、天保頃。

國政　竹内氏、三世國政と號す、後に梅蝶樓二世國貞となる、一壽齋と號す、明治十三年七月廿日歿、五十八歳。

國政　四世國政、後に三世香蝶樓

國貞と改む、梅堂豊翁と同人竹內榮久。

國久　三世豊國の娘、榮女の婿、勝田久太郎、陽龍齋と號す、明治卅四年二月五日歿、

國久　二世豊國門人、後に三世豊國門人となる女子なり。

國峯　歌川豊宣の弟、國久の男、勝田氏、俗稱銀次郎、梅蝶樓と號す、新聞挿繪。

國長　一世豊國門人、歌川氏、俗稱梅干之助、一雲齋と號す、切組畫に長せり、文政中四十餘歲歿せり。

國滿　歌川氏、一世豊國門人、俗稱熊藏、一翁齋と號す、文化頃。

國安　一世豊國門人、歌川氏、俗稱安五郎、一鳳齋と號す、後名を改めて、西川安信といふ又改めて國安と稱す、天保三年七月六日歿、卅九歲。

國安　初代國安門人、二世國安、歌川氏。

國丸　一世豊國門人、俗稱伊勢屋伊八、後に文治、武州川越產一圓齋、五彩樓、翫蝶庵、輕雲亭、彩霞樓等の號あり、俳諧を鶯笠庵に學びて龍尾と號す、文政十三年歿、卅七歲。

國丸　三世豊國門人、歌川氏、二世國丸と號す、國麿を見よ、同人なり。

國次　一世豊國門人、歌川氏、中川氏、俗稱幸藏、一應齋と號文化元年歿、六十二歲。

國次　一世國次男、二世國次、歌川氏、幸藏。

國照　一世豊國門人、甚右衞門。

國直　一世豊國門人、歌川氏、本

姓吉川、俗稱彌四郎兵衞、又鯛藏、一煙齋、一楊齋、浮世庵、一齋、柳煙堂、柳煙樓、寫樂齋、後素園、獨醒舍、獨醉舍等の諸號あり、後に明書を學ひ北齋を慕ふ、晩年廢業惜むべし、信州の人、安政元年六月廿八日歿、六十二歲。

國直 初め一世豐國門人、後に三世豐國門人、蘆原を稱す、二世國直、安政頃。

國直 三世豐國門人、蘆原氏、三世國直と號す、

國信 一世豐國門人、金子氏、俗稱惣次郎、天保年中、御小人目付を勤め故ありて豐國より一陽齋の號を與へらる、堰埭樓、一禮齋、陽岳舍、志満山人等の號あり。

國信 三世豐國門人、二世國信と號す。

國芳 一世豐國門人、歌川氏、本姓柏谷氏、幼名芳三郎後ち孫三郎、紺屋業なり、後に井草氏に養はる始め國直の宅に僑居す、一勇齋又朝櫻樓と號す水滸傳の書最著はる、文久元年三月五日歿、六十五歲。

國忠 一世豐國門人、歌川氏。

國勝 一世豐國門人、歌川氏。

國虎 一世豐國門人、俗稱久米藏歌川氏。

國兼 一世豐國門人、歌川氏。

國兼 二世豐國門、後に三世豐國門人。

國武 一世豐國門人、歌川氏。

國宗 一世豐國門人、歌川氏、俗稱山下松五郎、長文齋杉嶺と號す。

國宗 二代國政同人なり、山下勇藏後に二世國宗となる。

國彦　一世豐國門人、歌川氏。

國時　一世豐國門人、歌川氏、一鏡齋。

國幸　一世豐國門人、歌川氏。

國花　一世豐國門人、女子なり、歌川氏。

國爲　一世豐國門人、歌川氏、一年齋と號す。

國宅　一世豐國門人、歌川氏。

國英　一世豐國門人、一筆齋或は曰く一峯齋と號す、歌川氏。

國景　一世豐國門人、歌川氏、一笑齋と號す、後に二世豐國門歟。

國近　一世豐國門人、一に國周に作る、歌川氏、俗稱藤次郎、一英齋と號す、早世。

國重　一世豐國門人、二世豐國源藏の初名。

國重　一世豐國門人、歌川氏、豐廣の子、豐清の後名なりとの說あり、喜齋と號す。

國重　二世豐國門人。

國瀧　一世豐國門人。

國光　一世豐國門人。

國光　三世豐國門人、歌川氏、一雄齋。

國清　一世豐國門人、本姓江守安藏、一樂齋と號す、幕府の小吏なり、茶番狂言名を松魚と云ふ、罪を獲て八丈島に流さる、文化頃の人（或は曰く和田氏と）。

國清　三世五渡亭國貞門人、一樂齋と號す、別に松魚樓の號あり、天保頃、是は右同人にして、初め豐國後に國貞門ならん。

國種　一世豐國門人、歌川氏。

國鐵　一世豐國門人、歌川氏。

國登　一世豐國門人、女子なり、歌川氏。

國房　一世豐國門人、多三郎、文化頃。

國房　三世豐國門人、大竹氏、俗稱鶴三郎、後に政直と改む、二世國房と號す、又一梅齋の號あり。

國房　三世豐國門人、俗稱吉藏、福井藩、島崎捨八。

國茂　一世豐國門人、歌川氏。

國廣　一世豐國門人、歌川氏、浪花人。

國員　一世豐國門人、浪花人、萬延頃。

國春　二世豐國門人、元と俳優嵐德三郎なり、文政十一年俳優を止めたる故に筆を採りたるは十二年間なり、山風亭と號す、天保十年十月廿六日歿、卅七歲。

國道　二世豐國門人。

國鶴　二世豐國門人、和田安五郎大阪住。

國鶴　和田安五郎男勘之助、歌川二世國鶴と號す。

國道　初め二世豐國門人、後に三世豐國門人。

國弘　二世豐國門人、後三世豐國門人か。

國盛　二世豐國門人。

國松　和田國鶴の次男。

國松　二世豐國門人、後に三世豐國門人、一龍齋と號す、國鶴次男と同人歟。

國總　二世豐國門人、歌川氏、天保頃。

國麿　三世豐國門人、歌川氏、横山近二或は曰く、菊越菊太郎と、二世一圓齋又菊武と號す

俳名菊翁、安政頃。

國輝　三世豊國門人、岡田氏、俗稱藤四郎、初め貞重獨醉舍と號す、弘化の初め國輝と改む一雄齋又は雄齋と稱す、明治七年十二月十五日歿、四十五歲。

國輝　初め國綱、後に二世國輝と號す、俗稱山田金次郎、一蘭齋と號す、三豊世國門人。

國綱　二世國輝の初名。

國明　三世豊國門人、蜂須賀氏、元治、慶應。

國明　三世豊國門人、一世國明の弟、蜂須賀氏、原姓は平澤氏俗稱斧三郎、一鳳齋又た鳳齋と號す、角力を好む、二世國明と稱す、明治廿一年七月廿九日歿。

國周　三世豊國門人、荒川氏、俗稱八十八豊原を稱して歌川を名乘らず、歌川派中にして歌川を名乘らざる者獨り國周あるのみ、一鶯齋と號す、明治三十三年七月一日歿、六十六歲。

國卿　三世豊國門人、歌川氏、俗稱政次郎、立川齋又た一曜齋と號す早世。

國朝　三世豊國門人、初め二世豊國門人、俗稱友次郎、本業は酒舖なり、大阪の人。

國孝　三世豊國門人、俗稱喜之助一柳齋と號す、國貞の差配人後瘋癲病となり歿す。

國利　三世豊國門人、山村氏、俗稱清助、梅壽と號す、歌川氏。

國盛　三世豊國門人、初め春艸と號す、一寶齋とも、安政頃。

國富　三世豊國門人、初め二世豊國門人、俗稱磯吉、蒔繪師の子。

國玉　三世豊國門、國貞の義弟の子なり、俗稱岩次郎、一寶齋と號す。

國邑　三世豊國門、歌川氏、石澤清次郎。

國得　三世豊國門人、歌川氏、大屋幸五郎。

國繁　三世豊國門人、歌川氏、初名國路、本業提燈業。

國路　國繁の初名。

國益　三世豊國門人、歌川氏、岩次郎。

國幸　三世豊國門人、槇田氏、福井藩士。

國壽　三世豊國門人、俗稱彌五郎歌川氏。

國雪　三世豊國門人、道之助。

國雪　二世國貞門人、梅章と號す右と同人か。

國時　三世豊國門人、歌川氏、俗稱久喜萬字家の楯吉といふ。

國忠　三世豊國門人、歌川氏、久次郎。

國廣　三世豊國門人、淺草藏前、伊勢四郎の手代。

國爲　三世豊國門人、米吉。

國魁　三世豊國門人、茜齋と號す。

國泰　三世豊國門人、歌川氏。

國歳　三世豊國門人、歌川氏。

國興　二世豊國門人、後に三世豊國門人。

國一　二世豊國門人、後に三世豊國門人。

國升　貞升門人、歌川氏、大阪人嘉永頃。

國雄　守國門人、橘氏、國雄、提芳齋、陵天齋と號す、俗稱酢屋平十郎、大阪住、延享頃。

國晴　芳盛門人、歌川氏、俗稱正木福松、芳盛齋國晴と欵す、

後に一光齋二代芳盛と改む。

國雷　歌川氏。

廣演　豊廣門人、歌川氏、京師人文化頃。

廣昌　豊廣門人、駿州沼津の人、大平屋某、文化頃。

廣恒　豊廣門人、歌川氏、文化、文政頃。

廣政　豊廣門人、文化、文政頃。

廣兼　豊廣門人、文化、文政頃。

廣重　豊廣門人、安藤氏、幼名徳太郎、後に十右衛門又徳兵衛山水畫に著名なり、文化八年十五歳の時、豊廣門となり、文化九年三月九日、歌川廣重の名を與へらる、一幽齋又は一遊齋と號す、文政十二年一遊齋を改めて、一立齋と號す天保四五年頃より、一立齋並に立齋を並用し、嘉永年間よ

りは立齋を専用す、東海堂歌重とは其狂歌名なり、安政五年九月六日歿、六十二歳。

廣重　一世廣重門人、鈴木氏、俗稱鎮平、初め一幽齋重宣と稱す、師の娘に配して、一立齋二世廣重と號せり、後ち一立齋を更に立齋と改む、妻女のことに付き自ら家を出て横濱に住し、立齋を改めて喜齋立祥と稱せり、又横濱滯在中は二代目廣近と稱せしとあれども詳かならず、筆意一世廣重に極似して見違物多し、明治二年歿、四十四歳。

廣重　一世廣重門人、本姓後藤寅吉、初め一笑齋重政と號す、重宣師家を離縁せし後、其跡に入夫して先きの重宣の稱せし二世廣重を取消し、自ら二世廣重と稱す、實は三世なり

名を德兵衞と改め、一立齋を稱せり、明治廿七年三月廿八日歿、五十三歲。

廣重　四世廣重と稱するは、明治四十四年十二月菊池貴一郎が初代廣重の門人たりし緣故に據り、三世廣重の未亡人と談合して、四世を嗣ぎたるに過ぎず。

廣近　重宣廣重の子歟、俗稱爲吉天保六年生。

廣光　鳥羽氏。

廣光　貞廣門、湯川氏、後に松堂と號す、大阪住。

廣國　淺井氏、京師住、安政頃。

廣湖　高橋氏、明治。

廣丸　鳥羽氏、天保頃。

廣信　五葉亭と號す、大阪の人、文化頃。

廣貞　大阪の人、歌川氏。

恒章　速見氏。

恒春　年恒門人、幡晴道、明治十六年生、大阪。

恒延　年恒門人、磯部音吉、明治十六年生、大阪。

恒茂　年恒門人、後に深田直城門人、川上伊三郎、明治九年生大阪。

恒秀　年恒門人、宮本秀太郎、大阪後神戸住、明治十年生。

恒房　年恒門、槇岡氏、大阪。

恒富　年恒門人、北野氏、大阪。

光起　土佐氏、光則の嫡子なり、繪所預となる、薙髮して常昭と號し、晩年茶香を嗜むと云ふ、元祿四年九月歿、七十五歲。

光益　土佐氏、光吉門人、天正、慶長の頃、和漢名書苑に所載せらる。

光純 土佐氏、光茂の門人、天正慶長の頃、和漢名畫苑に所載。

光信 長谷川永春の名。

光信 清水氏。

光章

光一 法橋に叙せらる、安永頃の人、等琳風。

光宣 花岡氏、小本插繪、天保頃。

光 土佐氏、新聞插繪、明治。

光逸 小林清親門人、土屋氏、明治。

光性 元文頃。

五景 八島氏、岳亭春信の男、弘化頃。

五七 榮山門人、俗稱亀助、大阪在住の時、神谷蓬洲といふ、春川五七と稱す、江戸小石川住、文化の頃より京都住。

五岳 八島氏。

五池堂 歌川一豐の別號。

五清 北鵞の後名、

香得 歌川氏、明治。

香朝樓 歌川風、明治。

香涯 渡邊氏、東京新聞插繪。

江漢 本姓安藤吉次郎、後に土佐人、土田孫三郎の養子となり土田吉次郎と稱す、麻布に住す、初め宗紫石門人なり、司馬氏、名は峻、字は君岳、通稱勝三郎又吉次郎、孫三郎、後に孫太夫と云ふ、春信門に入り、浮世繪を學ぶ、春信死後一時、鈴木春信と號し間なく春重又は蕉亭と號す、實に我國銅版書の祖なり、春波樓不言道人等の號あり、文政元年十月廿一日歿、七十二歲。

江南 草雙紙、文化頃。

湖龍齋 磯田氏、名は正勝又は春廣俗稱庄兵衛、土屋家の浪人、

西村重長門人、東都藥研堀隱士と號す、安永の頃、法橋に叙せらる、錦繪多し、明和安永天明頃。

幸元 石川氏、一筆齋文調の師なり、寶暦頃。

高溪 二世嵩谷門人、澤山氏、玄々齋と號す、文政頃、

高岳 二世嵩谷門人、和田氏、白盛樓と號す、文政頃。

高旭 二世嵩谷門人、中根氏、文政頃、

呉山 石燕門人。

呉鳥齋 小本挿繪。

鴻臺 北齋門人、高井氏、俗稱三九郎、信州高井郡小布施村の人、造酒業なり、初め岸駒に學び、後北齋に就く、北齋の信州に遊ぶや此家に居ると一年なりと云ふ、文化頃。

行麿 歌麿門人、享和頃。

行町 戀川春町二世の初名。

古洞 山中氏、新聞挿繪、明治。

古﨔 梶田半古門人、田代常太郎明治十五年生、東京。

虎重 芳虎門人、永島氏、俗稱福太郎、孟齋又は竹林舍と號す、慶應。

虎香 芳虎門人、一魁齋と號す、慶應頃。

孝之 年恒門人、新聞挿繪、明治。

興秀 小本挿畫、天明。

谷卿 芳谷門人、歌川氏。

弘方 瀧村氏、明治廿二年六月歿年二十二。

厚丸 小金氏、寛政頃。

工一 明和頃枝川工とあり彫の意歟

耕一 月耕門人、山村氏、俗稱濤助、明治頃。

榮之 榮川院典信門、細田彌三郎名は富時、鳥文齋と號す德川

旗下の士、細田彈正時行の長子なり、或は曰く、俗名五郎兵衞と、治部卿と稱す、文政十二年七月二日歿、享年七十四歳なりと、未確。

榮理　榮之門人、榮里又は永梨に作る、天明頃。

榮昌　榮之門人、鳥高齋又た昌榮堂と號す、寛政頃。

榮水　榮之門人、一樂齋と號す、享和頃。

榮尙　榮之門人、一貫齋と號す、一正言の印あり、文化頃。

榮笑　榮之門人、天明頃。

榮龜　榮之門人、鳥壽齋。

榮玉　榮之門、琢島氏、琢齋と號す。

榮深　榮之門人、鳥園齋と號す、鳥川氏、如山とも號す。

榮節　榮之門人、霽月齋。

榮京　榮之門人、鳥玉齋。

榮月　榮之門人、翠松齋と號す、享和頃。

榮黄　榮之門人歟、細田氏。

榮暉　榮之門人。

榮甫　榮之門人。

榮樹　榮之門人。

榮雅　榮之門人。

榮波　榮之門人。

榮文　榮之門人。

榮里　榮理と同人。

榮晁　榮之門人、文和齋、高田氏。

榮鳥　榮之門人。

榮綾　榮之門人。

榮興　榮之門人。

榮山　榮之門人、春川氏、寛政頃。

榮山　二世等琳門人、月岡氏、文化頃。

榮成　小林氏、明治。

榮江　榮之門人、弄春齋と號す。

榮松　榮之門人、鳥玄齋と號す、蜀山の賛あるあり。

榮女　葛飾北齋の三女、父に學びて頗る畫を能くす、提等琳の門人たる南澤等明に嫁せしが離別せられて家に歸り父と同棲して其畫業を助けて以て世を終ふ、父に似て頗る奇癖ありしと。

榮壽　榮之門人鰍鳥囀齋と號す。

榮礎　享保十六年とあり。

榮次　豊川氏、文化頃。

英山　菊川氏、名は俊信、俗稱近江屋萬五郎、重九齋と號す、初めは父英二に學び、次ぎて南嶺の門人となる、北溪を友として北齋流を畫く、歌麿歿後、歌麿が畫風に似せて板繪の美人を出せり、慶應三年歿八十一歳。

英山　野澤氏、文政頃。

英信　英山門人、俗稱安五郎、摺物多し。

英秀　英山門人、菊川氏、文化頃。

英蝶　英山門人、始め春川五七門人、京師の人、英章と同人。

英柳　英山門人。

英賀　英山門人、菊川氏。

英里　英山門人、冬木氏。

英子　英山門人。

英重　英山門人。

英眞　英山門人。

英徳　英山門人。

英玉　英山門人。

英龍　英山門人。

英亀　英山門人。

英嶺　英山門人。

英章　英山門人、菊川氏、本姓淺

野氏、文政頃。

英章　英山門人、淺野氏と同名なり、故に人呼びて光一英章といふ、狂言作者なり、一に英笑に作る、文政頃、京師產。

英章　春英門人、勝川氏。

英泉　菊川英山の父、英二の家に寓居す、故に自然と英山門と見做さる、溪齋と號す、名は義信、一に茂義、字は混聲、俗稱善次郎、後に里介無名翁、國春樓、櫻北亭等の號あり、戲作名を一筆庵可候といふ、初め狩野白珪齋の門に入る、後又一時狂言作者、篠田金治の門に入り、千代田才一と云ふ、壯時放蕩無賴なりしが、晚年前非を悔へ父母に事へて至孝なり、其他奇行多し、嘉永元年七月廿二日歿、五十九歲。

英一　英泉門人、后に英山門人と云ふ、靜齋と號す。

英笑　英泉門人、師歿後英山門人と云ふ、京師の人、最初春川五七門人にて、春齋と號す、江戶に移りて英泉門人となり英蝶と號す、光一英章と同人なり、文政頃。

英壽　英泉門人、酒井氏、俗稱伊三郎、英齋と號し、一筆庵と號す、浪花に住す。

英得　英泉門人、一陽軒と號す。

英之　英泉門人、俗稱源次郎、米花齋と號す、后に英山門人となる、天保頃。

英之　佐脇嵩雪の女、名は滿佐、寬政三年六月三日歿、早世。

英春　英泉門人、後に英山門、大木氏、天保頃。

英政

英蝶 京師人、光一英笑の初名。

英松 英泉門人、弘化頃。

英曉 英泉門人、弘化頃。

英齋 勝川春英門、文政頃。

英川 野澤氏。

英時 石燕門人。

英親 建部巣兆を見よ。

英忠 河合氏、東京朝日新聞に執筆。

永春 長谷川氏、名は光信、梅翁軒、梅峯軒、又は松翠軒と號す、英勇畫譜あり、大阪の人寶暦頃。

永理 永春門人歟、礫川亭、又は小石一指と號すれば、何も小石川住居を意味する爲めか、一に永艃とも、文化頃。

永洲 芳洲門人又は永州に作る。

永艃 永理と同人。

永梨 榮之門人、永里と同人。

永千代 永洲門人。

永多代 永洲門人。

永濯 狩野家門人、小林氏、俗稱秀次郎、鮮齋と號す、明治廿三年歿。

永洗 永濯門人、富岡氏。

艶鏡 歌舞堂と號す、役者似顏を書く寫樂と同時。

艶豐 初代芳艶門人、市場氏、明治。

艶政 初代芳艶門人。

艶長 初代芳艶門人。

益信 田中氏、善辰齋と號す、辰字一に居に作る、自書作の雙紙あり、五代柏莚の似顏を書く享和頃。

益信 谷川氏、懷月堂風。

易信 風山氏。

驛齋 北馬門人。

映窓 岡田氏、春英重政と合作の三美人肉筆あり。

圓雄 皎天齋。

圓阿彌 歌川芳滿。

圓志 闇牛齋と號す、天明より寛政頃。

盈齋 葛飾北岱の號。

淵里 葛飾風、天保より明治。

燕十 本名は鈴木庄之助、通稱志水氏、戯作者なり、天明頃。

燕鳥 石燕門人。

燕子 石燕門人。

燕字 石燕門人。

燕二 石燕門人、吉日庵。

燕示 石燕門人、東草亭。

延一 周延門人、楊齋と號す、明治。

越堂 尾竹熊太郎、竹坡の同胞、明治元年生、大阪。

貞武 高木氏、祐信派。

貞信 田村氏、寛保頃。

貞信 三世豊國門人、長谷川氏、信天翁と號す、大阪の人。

貞信 長谷川貞信男、俗稱德太郎小信とも、嘉永元年生、大阪人。

貞重 三世豊國門人、歌川氏、獨醉舍と號す、天保。

貞秀 一世豊國門人、歌川氏、橋本兼次郎、名は玉蘭、五雲亭、玉蘭齋と號す、天保。

貞繁 三世豊國門人、早世。

貞繁 三世豊國門人、右と別人。

貞綱 三世豊國門人。

貞虎 三世豊國、俗稱與之助、五風亭。

貞歌 三世豊國門人、女子。

貞久 三世豊國門人。

貞廣 廣貞門人、三谷氏、大阪人

天保頃。

貞章 廣貞門人、五丁亭と號す。

貞房 三世豐國門人、五瓢亭、五亀亭と號す、又橘蝶樓と號す大阪人。

貞景 三世豐國門人、五湖亭と號。

貞景 二世。

貞幸 三世豐國門人、五丁亭と號す、横川瓦師の男。

貞雅 三世豐國門人。

貞兼 三世豐國門人。

貞勝 三世豐國門人。

貞延 三世豐國門人。

貞宣 三世豐國門人。

貞國 三世豐國門人。

貞知 三世豐國門人。

貞猶 三世豐國門人。

貞岡 三世豐國門人。

貞芳 歌川氏、一瓢亭と號す。

貞孝 歌川氏。

貞美 歌川氏。

貞升 三世豐國門人、歌川氏、大阪住、後に國升と改む。

貞周 歌川氏。

貞熊 歌川氏。

貞年 歌川氏。

貞政 歌川氏。

貞宣 歌川氏。

貞伴 歌川氏。

貞之 姓氏未詳。

田善 永田氏、俗稱善吉、岩代國須賀川人、昆山弟亞歐堂と號す、白河樂翁に召され司馬江漢を補けて、銅版書を試む、最も洋書を研究す、文政五年五月七日歿、七十五歲。

田一 田善門人、遠藤氏、俗稱忠兵衞、字は如洋曙山樓と號す後ち文晁の門に入り、趣雲齋

と號し、文豊と改む、弘化二年歿、五十三歲。

田川 石燕門人。

天淵 北齋風、司馬章の印あり。

鐵鳥齋 耳鳥齋門か、文化頃、大阪。

鐵女 葛飾北齋娘と落欵す、頗る上手なり、北齋との關係明かならず、恐くは榮女の前名か或は𢈘女の名ならんか。

定景 曾谷氏、土佐風の浮世繪。

定好 吉川氏、一枚繪あり、此の人の畫にフキ繪といふあり、浮繪に似て異なれり明和頃。

定年 中路氏、畫本あり、享保頃。

定省 井野氏、京都住、享保頃。

傳六 山本氏、淸水寺に遊女の額ありたりと、京師人、元祿頃。

安度 懷月堂、俗稱岡澤源七、寶永、正德頃の人、花街漫錄には元和中、淺草に住ける人御府浮世繪師の祖とあり、又古畫備考には元祿より少し古しといへり、何れか是なるを知らず、日本戲畫、懷月安度圖國之と落欵す、度種度秀度辰等安度の下字度字を上字とせる畫名より推して此等の畫師は安度の門人たるべし、何れも同時代なり。

安知 安度門人、懷月堂と號す、他の同派のものが度何々と稱するに、獨り安知と稱するより見れば或は安度の子なるやも測り難し。

安知 稻葉安知元周。

安信 七左衞門。

安信 歌川氏、一鳳齋國安の事なり、一時姓名を變じて、西川安信と稱す、後又歌川國安に復す、文政頃。

安信 國安門人。

安重　國安門人。

安常　國安門人。

安秀　國安門人、歌川氏。

安春　國安門人、歌川氏。

安清　國安門人、歌川氏。

安峯　國安門人、歌川氏。

安政　長谷川安政、畫風常正風。

安治　小林淸親門、井上氏、明治。

さわ　菱川師宣門。

三蝶　古川氏、寛政頃、自畫作の草紙あり。

三春　明和安永。

三絲　奥村風、延享。

三木　桂みき女、桂宗信娘か、天明頃。

簑洲　鎌田巖松の門人、大阪住。

山月　關月門人、大阪住。

玉山　雪鼎門人、岡田氏、名は尙友、字は子德、法橋に叙せらる又蔀關月の門人とも云ふ、大阪人、文化九年歿、七十六歳、板刻畫の祖。

玉山　岡田玉山門人、師の名を繼ぎ、二世玉山となる、名は修德、字は子秀、大阪の人、江戸に來り神田紺屋町に住せしが、一日出でゝ行く所を知らず、文政頃。

玉山　石田氏、初め玉峯又は蓼華齋と號す。

玉水　一世玉山門人、京師の人、弘化頃。

玉峯　一世玉山の子、大阪の人、石田氏、後に玉山を襲ふ。

玉藻　一世玉山門人、水原氏、畫風歌川に近し、大阪の住、天保頃。

玉英　周延門人、鍋田氏、天保頃。

玉堂　玉泉門人、後梅嶺雅邦に從

へ學ぶ、川合芳三郎、明治六年生、東京。

王龜　玉英門人、天保頃。

玉僊　墨僊門人、森氏、高雅と號す、後に土佐派に入る、名古屋住。

京傳　北尾政演を見よ。

京水　磐瀨氏、通稱梅作京山の男戯作者且つ蒔繪師なり、慶應三年三月九日歿、五十二歳。

吉信　狩野派、川越喜多院の屛風畫に、狩野吉信の印ある風俗畫有。

吉信　紀の吉信、藤井氏、祐信風草雙紙。

吉町　戀川氏、春町門人、文化頃。

吉麿　歌麿風、寛政頃歟。

吉平　梅津氏、京都住、寛政頃。

幾英　芳幾門人、小林氏、俗稱英次郎、飛幾亭と號す、慶應。

幾丸　芳幾門人、武田氏、一交齋と號す、慶應。

幾勝　芳幾門人。

幾年　芳幾門人、歌川氏、明治。

幾歳　芳幾門人、女書師、一葉齋と號す、慶應頃。

義堅　池尻氏、元祿風の美人畫あり、水瓢子と號す。

義信　山本氏、俗稱平七郎、繪本草雙紙あり、寛延頃。

義信　鈴木春信門人、駒井氏、明和。

義勝　浮世氏を稱す、姓名詳ならず、元祿前の人。

義松　芳柳男、歌川氏。

輝信　勝村氏、紅畫あり、享保頃。

輝重　勝川氏、一枚繪あり、享保頃。

輝重　淸春門人、目川氏、天保頃。

輝角　不角の門人、俳人なり、傍

ら俳書的浮世人物を書く、寶暦。

輝人　歌川國丸門人。

輝方　年方門人、池田氏、明治。

龜次郎　鳥居龜次郎、十二歳筆とあり。

亀仙　明和頃。

亀毛　政演門人、一説に政演の戯名ならんといふ、寛政頃。

亀白　石燕門人。

魚川　吉田氏、春興の摺物、青、黄、赤の三遍摺を工夫し、又打出し書を工夫せり、元文頃。

魚彦　下總人、楫取氏、俗稱稻生茂左衞門と云ふ、眞淵に國學を、建孟喬に繪書を學びて能くす。

鬼玉　古川氏、繪本多し、明和。

吟雪　房信富川氏を見よ。

吟雪　房信門人、俗稱山本妙之助二世吟雪と號す、後北齋門に入り、北雅と號す。

吟光　安達氏、俗稱平七、松雪齋後に松齋銀光とも、明治。

旭江　淵上氏、山水奇觀に挿繪あり。

旭光　春旭門人、勝川氏、草雙紙あり、天明頃。

金長　草雙紙、寛政頃。

金朝　寛政頃。

金次　姓氏未詳。

金嶺　中井藍江門、西村氏、大阪住。

菊水　西川豊信、享保頃。

菊麿　歌麿門人、或は喜久麿と書す、喜多川氏、俗稱六三郎又は千助、名は潤、字は士達墨亭と號す、文化元年頃、月麿と改む、後に觀雪と號す。

菊仙　公文(くもん)氏、新聞挿繪。

曉齋 狩野洞白門人、名は洞郁、惺々狂齋と號せしが後に狂字を改めて曉とす、剃髪して是空入道又は如空居士といふ、下總古河の人、明治廿二年五月歿、五十九歳。

曉雲 曉齋の男、明治。

曉春 曉齋門人、明治。

久信 歌川豊久門人、草雙紙、文化。

久國 姓氏未詳。

久英 石燕門人。

堯珍 穗積氏。

拱一 葛飾氏。

休眞 樂央齋、享保頃。

喜多樓 吳春門人、柴田義董の別號文政二年歿、四十歳。

喜多女 英山門人、荻原氏。

喜久麿 菊麿を見よ。

葵岡 葛飾北溪を見よ。

巨洲 蘆亭と號す、明和頃。

巨川 春信同時の人、彫工との說あれども然らざるが如し。

巨泉 芳瀧門、川崎氏、明治。

其計 高橋氏。

其鳳 石燕門人。

鏡山 立圃男又は鏡山とあり、何れか眞。

磯次郎 井筒屋、京都、天明頃。

錦舟 大和川錦舟と號す。

祇德 石燕門人。

基春 年基門人、林捨藏、大阪住明治三十六年九月六日歿、四十六歳。

友章 菱川師宣門人。

友宣 菱川師宣門人。

友杏 寶曆三年出版の世話詞渡世雀に此名あり、京師住、祐信風。

友禪　宮崎氏、本姓日置氏、元と加賀の人、後京都祇園町に移住し、始て書法を指帛に染着する事を發明し、友禪染是より始まる、享保頃。

友元　重信を見よ。

友房　師宣門人、菱川氏、元祿頃。

友直　月岡氏。

友淸　姓氏未詳。

友幸　芳川氏、自書作の草紙あり安永頃。

又兵衛　岩佐氏、浮世繪の祖、勝以を見よ。

又兵衛　當世繪又兵衛と稱す、京師の人、一に又平、三合一覽に見えたり、元祿頃。

祐信　西川氏、俗稱祐助、後に右京と稱し、自得齋又は文華堂と號す、大和繪師と書す、初め狩野永納土佐光祐に學び、後に一家を爲す、江戸の師宣に比すべき名手なり、寶暦元年九月十一日歿、八十一歲、京師住。

祐春　西川氏、京師住、慶應。

祐寛　藤原祐寛と落欵、榮之風、寛政頃。

祐尹　祐信男、京師の人、享保頃、寶暦十二年八月廿五日歿、五十七歲。

祐爲　西川派、梨木氏。

遊馬　北馬門人、文政頃。

遊國

有秀齋　蘭亭と號す、明和、安永頃。

有信　菱川氏。

有賀　狩野風、落欵に法眼勝賀苗裔雨亭園林有賀とあり、正德頃。

鳴蟲　葛飾風、錦亭と號す、小本挿畫、文化頃。

め吉

岷江　橘氏、名は正敬、玉樹軒と號す、元縫箔師、摺込彩色を工夫せり、大阪人、寶暦頃。

岷和　合川氏、名は秀成、字は士陳、雪山と號し又合川亭と號す、岸駒門人、大阪人、文政頃。

春信　鈴木氏（本姓穗積氏）次兵衞と稱す、東錦繪の祖、名手なり、西村重長門人と傳ふ、明和七年歿、享年四十六歲、長榮軒と號せしとも云。

春信　司馬江漢の肉筆に蕉亭として印章に春信とあれば、江漢が一時二世春信と稱せし事疑なく、間もなく世の非難を憚れて春重と改稱せしならん。

春信　宮川氏、寛政頃。

春信　北溪門人、葛飾氏、本八島氏、岳亭と號す、岳亭を見よ。

春町　鳥山石燕門人、俗稱倉橋壽平、戀川といひ、壽山人と號す、小島丹後守の家士なり、狂名を酒上不埒春町坊と號す寛政元年七月七日歿、四十六歲。

春町　通稱小川市太郎、或は鉄太郎、李庭亭幸町又雪町とも號す、戲作は初代春町に學びて二世春町と號し、畵は歌麿に學ぶ、後歌麿の寡婦に入夫して二世歌麿となる、梅雅堂と號す、文化、文政頃。

春治　春信門、鈴木氏、明治。

春門　松永氏、師宣同時。

春重　司馬江漢の浮世繪名なり、江漢を見よ。

春重　宮川春信門人とあり、如何哉。

春政　戀川氏、歌麿風。

春廣　湖龍齋の名にして、重に明和八年以前の作に此名あり。

春成　京師の人、文化頃。

春子　春陽齋と號す、大阪の人、萬延頃、

春富　芳春門人、歌川氏、或は曰く、國芳門、慶應頃。

春水　長春門人、宮川氏、後ち勝宮川といふ、大和畫師と稱す享保頃。

春水　春水門人、勝川氏、俗稱藤四郎、或は曰く、春水二代あるにあらず、勝川春水は即ち勝宮川春水にして唯晩年宮字を除きたる迄なりと、元文頃。

春水　服部氏。

春章　勝宮川春水門、勝川氏、始め勝宮川、俗稱祐助、酉爾、縦書生、六々庵、李林、旭朗井等の別號あり、印章には千尋とあり、役者似顔風、俗美人畫の名手、版繪に壺印を用ゆる故に人呼びて壺春章といふ、寛政四年十二月八日歿、六十七歳。

春章　春英門人、初め其松井春幸と號す、後ち天保初年旭松井二世春章と稱す、勝宮川の印文を用ゆ。

春潮　勝川春章門人、俗稱吉左衞門、東紫園、中林舍三江と號す、後淸長の筆意に倣ふ、文化年間浮世繪を廢し、俊滿の門に入り專ら狂歌、狂文を事とし、俊朝と改め、吉左堂といふ、文政四年にも尙ほ存生なれば長壽と見ゆ。

春常　勝川氏、本姓安田岩藏、春章門人、天明七年七月一日歿。

春英　勝川春章門人、磯田久次郎九德齋と號す、頗る狂畫に巧

なり故に當時暑中見舞の團扇多く春英の筆になれり、一世豐國、始は春英の畫を慕ふて之に倣へり、重政も評して江戸繪の版繪は、春英の右に出るものなしと激唱せし程一時流行せり、文政二年十月廿六日歿、五十八歲。

春好　勝川春章門、本姓淸川氏、初名春扇、錦繪役者畫の名手晩年左筆、壺印を用ゆ、人呼んで小壺といふ、一世春章歿後、二代春章と名乘りしも暫時にして、春英門人、春幸をして二世春章を襲がしむ、文化九年十月廿八日歿、六十一歲と傳ふ、或は五十七歲。

春朗　北齋の前名、春章門人たりし時、勝川春朗又は叢春朗といふ。

春朗　勝川氏、歌川豐丸改めて朗と號す、文化頃。

春翁　春好の前名。

春江　春章門人、寛政。

春童　春章門人、本姓は林氏、初め春水門に學び、勝宮川と稱す、後に蘭德齋と號す、名は春道と云ふ、寛政頃。

春鶴　春章門人、寛政頃。

春喬　春章門人。

春紅　春章門人。

春林　春章門人。

春林　中江藍江門人、奥田氏、大阪住。

春旭　春章門人。

春泉　春章門人。

春龍　春章門人。

春里　春章門人。

春艷　春章門人。

春蝶　春章門人、日本浮世繪師と

號す。

春榮　大阪人、似顏畫、天保頃。

春貞　春章門人。

春升　國盛の初名、一寶齋と號す。歌川風、胡蝶庵又蓬萊と號す、嘉永頃。

春曉齋　速水氏、名は恒章、俗稱彥三郎、鶴僊齋と號す、玉山の畫風、文政六年歿、大阪人。

春曉齋　二世なり、春民を見よ。

春曉　麗齋と號す、明治。

春民　速水氏、名は恒茂、俗稱民之助、春曉齋の男、後に二世春曉齋と號す。

春香　南齋又は扶桑園と號す、明治。

春朝　春章門人。

春朝齋　本姓松本氏、俗稱竹原門次、名は信繁、大岡春卜門人、或は曰く、春卜門坂本春汐齋門人なりと、名所圖繪の插繪を以て著はる、大阪人、寛政十二年歿。

春泉齋　春朝齋の男、一說に春水と號す、大阪人、天明頃。

春中　國芳門人、或は曰く、芳春門人、歌川氏、慶應頃。

春德　春英門人、一說に春章門人、俗稱千太郎、武者畫あり。

春幸　春英門人、其松井と號す、後に二世春章と改む。

春景　春英門人。

春陽　春英門人。

春勢　春英門人。

春柳　春英門人。

春齋　春英門人。

春馬　春英門人。

春雄　春英頃人。

春和　春英門人。

春亭　春英門人、山口氏、俗稱長十郎、松高齋、勝汲壺、戲墨庵、醉放逸人の號あり、後歌川豐國の畫風に倣ふ、文政三年八月三日歿、五十一歲。

春亭　前野一廣、明治。

春玉　春英門人、一に春章門人、亭和。

春玉　春英門人、文政頃、右と別人歟。

春紅　春英門人、春章門人と同人歟。

春琳　春英門人、初名春扇と號す文政。

春扇　堤等琳門人の時は春琳、或は秋琳と號す、俗稱淸次郎、春英の門に入り、春扇と號す文政二年頃より二代春好となる、登龍齋、可笑齋と號す、文筆の才あり、文政六年より陶器師となり、繪猪口を描けり、其妻頗る文才あり、月光亭松壽又は笑壽と號す。

春靑　春英門人。

春久　春英門人。

春洞　春英門人、俗稱政藏、左筆なり、大政と呼稱せらる。

春雪　春英門人。

春山　豐彥門人、古田氏。

春山　春章門人、一說に春英門人本姓泉氏、名は昌有勝川氏。

春加　春英門人。

春禽　天明頃。

春嶺　北齋門人、東氏、江戶人。

春種　柳川重信門人、柳川氏。

春艸　錦江齋、弘化頃。

春堂　天保頃。

春汀　宮川氏、新聞挿繪。

春道　增本氏、明治。

春貞　保川氏、京師東洞院住、嘉永二年正月十三日歿、年五十二歳、門人岡本正太郎二代春貞となる。

春貞　保川氏、初代春貞門、本姓岡本正太郎、後に國芳門となり、歌川を稱す、又岡本春暉と改む、高橋由一に洋畫を學ぶ、明治二十年十一月十八日歿、五十八歳。

春貞　岡本氏、三世春貞、俗稱保三郎、二世春貞の男、望月玉泉幸野梅嶺に學ぶ、慶應元年生。

春暉　保川春貞の後名。

師宣　菱川氏、俗稱吉兵衛、剃髮して友竹と號す、安房國保田町の繡工吉左衛門道茂入道光竹の子、壯年江戸に出で繡箔を事とせり、後本業を捨てゝ專ら浮世繪を以て一家を爲す蓋し天才自得の妙技なり、寛文、延寶の際より板行繪を以て海内に名あり、板刻書の祖なり、正德四年八月二日歿、七十七歳。

師宣　春川氏、大阪の人、寶暦頃。

師房　菱川師房の長男、俗稱吉左衛門後に吉兵衛、始め畫工後に染工、元祿頃。

師永　一に師長に作る、俗稱沖之丞、一説に作之丞又は酒造之丞、師宣の二男、彩色に長せり、元祿頃。

師重　師宣門人、古山太郎兵衛と稱す、元祿。

師平　菱川氏、自ら師宣の一子と稱す、されど菱川系圖に此名なし、蓋し入門ならん、元祿頃。

師薰　師宣門人歟、大和繪風葉軒

桑子和翁と同人。

師繼　師宣門、菱川氏、本姓古山氏。

師政　菱川氏、師宣門人、古山新七郎と稱す、一に新九郎と此人より菱川の書風を失ふ、鳥居風を學ぶが故に古山師政と落欵す、享保、寛政頃

師秀　師宣門人。

師盛　師宣門人歟、菱川氏、名は勝董、元祿頃。

師胤　古山氏、師政男歟、享保頃。

師忠　菱川氏。

師忠　鳥居清長門人、寛政頃。

師興　師宣門人。

師壽　師宣門人。

師喜　師宣門人。

師信　菱川氏とあり、松野親信に似たるものなり。

師保　菱川氏、柳子軒とも。

師種　菱川氏、天保頃。

師二　天明頃。

重利　泰川氏、漆畫あり、自ら大和繪師と號す、享保頃。

重長　西村氏、俗稱孫三郎、仙花堂と號す、繪本類多し、寶曆六年六月廿七日歿、六十餘歲。

重信　春信門人ならん、花房氏、明和頃。

重信　山本氏、草雙紙あり、安永頃。

重信　狩野友元、通稱嘉六、筑州大守に仕ふ、致仕して空々齋と號す、享保頃の人、安信門人なりと。

重信　柳花堂と號す、京師の人、寛保頃、

重信　西村孫三郎重信とあるは、石川豊信の寶曆以前の前名なりと。

重信 廣瀨氏、明和頃。

重信 傚先師師信翁圖江都深川住菱川重信とあり。

重信 瀧澤氏、大和繪師とあり、享保頃。

重信 北齋門人、本姓鈴木氏、本所柳川町に住するを以て人呼びて柳川重信と云ひ遂に氏名の如くなれり、後に北齋の娘を娶り雷斗の號を讓らる、重信嘗つて大阪に下り頗る用へられしが、幾もなくして歸東す、天保三年十一月廿八日歿四十六歲。

重信 柳川二世、俗稱谷氏季三太初名重山と云ふ、志賀理齋の三男なり、字は子義、雪譙と號す、重信の女に配して二世重信と稱す。

重信 常川重信と落欵し、印には近藤氏とあり。

重春 淸峰門人、初名淸雅、後に重信門人、柳亭又は柳齋と號す、大阪人、山口氏。

重春 山本平七郎、安永の頃。

重房 西川風、寺井氏、尙選、雪譙齋と號す、大阪人、寶曆頃。

重房 吉野氏、俗稱勝之助、一世廣重門人。

重政 本姓北畠氏、俗稱北尾佐助幼名太郎吉久五郎、書肆須原屋三郎兵衞の子なり、字は非羸、繁昌或は恭雅とも書す、北峯、北鄒田夫、紅翠齋、花藍、兼儔、恒醉夫、碧水、醉放逸人、時雨岡逸民、了䰗居士等の號あり、當時の大家にして、春章、北齋、歌麿も皆其敎を受けたりと云ふ、文政三年正月廿四日歿、八十二歲。

重政 政美門、北尾氏、初名歌川

美丸と云ふ、後に二世重政と號す。

重政　一世廣重門人、後藤氏、通稱寅太郎、一に寅吉と云ふ、重宣安藤家を離縁せし跡に入夫し、安藤徳太郎を襲名し、二世廣重と稱す、其實は三世なり、明治廿七年三月廿八日歿す、五十三歲。

重宣　一世廣重門人、鈴木鎮平、一幽齋と號し、後安藤廣重の女に配して二世廣重と稱す、故あり離縁して、喜齋立祥と號す。

重清　一世廣重門人、榮齋と云ふ。

重晴　一世廣重門人、淸水氏、曉風と號す。

重美　一世廣重門人、倉田保之助。

重華　一世廣重門人、多賀荻之助。

重次　一世廣重門人、一昇齋。

重久　一世廣重門人。

重光　一世廣重門人、遠浪齋と號す、大阪人。

重演　北尾政演の初名。

重丸　歌川國丸門人、天保頃。

重麿　秀麿門人、喜多川氏。

勝以　荒木村重の末子にして、村重の死する時僅に二歲、乳母に伴はれて京都西本願寺内に住みて成長す、世を憚つて母氏の姓、岩佐を名乘る、長じて織田信雄に仕へ、後越前福井に流寓す、畫技に堪能なると江戸に知れ傳はり、家光の台命により江戸に上り、尾州家へ入輿の千代姫の調度に畫く、老年に及び自畫像を鄉里に送つて訣別す、慶安四年六月廿二日江戸に於て歿す、七十三歲と傳ふ、不詳印文勝以、道蘊、道、碧勝宮圖、雲翁等

あり、土佐末流岩佐又兵衛尉勝以と落款するあり。

勝重　岩佐又兵衛勝以の嫡子源兵衛と稱す、福井藩主公通に仕ふ、延寶元年二月二十日卒。

勝吉　井村氏、染物師にして繪本稽古帳あり、京師の人、寶永頃。

勝町　戀川春町の門人、井上氏、天明頃。

勝花　雙紙類あり、天明頃。

勝重　國勝門人、歌川氏、天保頃。

勝信　近藤氏、梅祐軒と號す、享保、元文頃。

勝秀　國勝門人。

勝政　國勝門人。

勝芳　國勝門人。

勝之助　國勝門人。

勝月　小島氏、東洲、名は勝美、明治。

勝吉　井村氏、江戸住、享保頃。

勝町　戀川春町門人、井上氏。

秀頼　狩野氏、元信の第二子、紹信と號す、高尾觀楓の圖あり享年四十七歲、弘治、永祿の頃。

秀素　藤田氏、赤本あり、享保頃。

秀蝶　春川氏、東京愛宕社に祇園會の額あり。

秀幸　一枚畫あり、畫風春信に似たり、天明頃。

秀成　赤松亭と號す、天明、寬政頃。

秀信　巨勢氏、大阪の人、法橋に叙せらる、享和。

秀葩　石川豊信の號。

秀山　秀山敬順とあり、文化頃。

秀麿　歌麿門人、喜多川氏、文化頃。

秀月　望齋と號す、新聞挿繪明治。

秀方　水野年方の妻かね、明治八年生、東京。

秀江　石燕門人。

信之　懐月堂風、空明堂と號す、京保、元文。

信節　喜多村氏。

信清　川島氏、自ら大和繪師と稱す、大阪の人、文化頃。

信秀　一世なり、歌川氏。

信秀　一世信秀門人、明治。

信一　歌川氏、國信の號。

信一　年信門人、藤原氏、明治、東京。

信與喜　國信門人、歌川氏、文政頃。

信房　國信門人。

信貞　國信門人。

信繁　竹原春朝齋の號。

信義　山本百字、方愈とも號す、六代目團十郎賛の書あり。

信光　泉谷氏、明治。

松好齋　吉田半兵衛の號。

松翠軒　長谷川光信號。

松庵　英一蝶。

松月　二世等琳門人、泉山と號す俗稱作十郎、寛政頃。

松東樓　草雙紙あり、文化頃。

松山　曉齋門人、早川氏、明治。

松堂　三谷貞廣門人、後に鈴木松年門人、俗稱湯川愛之助、大阪住、明治元年生。

松園　上村氏、京都、明治。

種繁　國種門人、歌川氏、弘化。

種政　國種門人。

種清　國種門人。

種景　國種門人。

種信　國種門人。

種員　房種門人。

周義　國周門人、豊原氏、明治。

周重　國周門人、守川氏、明治。

周季　國周門人、守川氏。

周春　國周門人、薫州。

周延　國周門人、楊洲と號す、明治。

周里　國周門人、明治。

周秀　國周門人。

周月　北川氏、大阪の人、文政頃。

常正　川又氏、釣雪齋と號す、享保頃、伊藤蘭嶋の賛あるものあり。

常行　川又氏、常正に似たり兄弟か寛保元年、行年六十五歳筆とせるあり。

常償　狩野氏、寒竹と號す。

常勝　蜷川氏、清和堂と號す、長春の風に似たり。

辰宣　北尾氏、雪坑齋仁翁と號す明和頃。

辰政　北齋の前名。

辰女　北齋娘辰女とせる肉筆あり

辰齋　葛飾北齋の前名。

辰齋　北齋の辰政と云し頃の門人名は政之、俗稱滿納半二と稱す、辰齋の名を繼ぎ柳々居辰齋と號す、狂歌摺物多し、享和頃。

俊滿　北尾重政門人、窪田氏、俗稱易兵衞、初めは楫取魚彥門人なり、春滿と稱せしを改めて俊滿とす、尚左堂と號す、左筆なり、狂歌戯作を南陀伽紫蘭黃山堂と號す、狂歌名を一節千秋と號す、文政三年九月二十日歿、六十四歳。

俊親　菊池容齋門人、魚類の錦繪あり。

俊之　師宣門人、石川氏、俗稱伊兵衞、元祿頃。

小信　大阪の人、嘉永頃、長谷川貞信の長男、初め貞信後に小

信となる、一世なり。

小　信　長谷川一世貞信男にして、二世小信なり、大阪住。

小　信　長谷川氏、二世貞信門、通稱信太郎、明治十四年生、大阪住、三世なり。

小石堂　一指の別號。

小芳盛　歌川風、三木芳盛門人、明治。

小國政　梅堂と號す、明治。

小松軒　明和頃。

小　泉　英泉門人、溪齋と號す。

尙　義　北齋門人、安田雷洲。

尙　選　寺井氏、重房と同人雪蕉齋と號す。

尙　敏　明和頃歟。

尙　國　祐信風、森氏。

蕉　鹿　德川幕士、高尾氏、江都神田住、狂歌を蜀山に學ぶ。

蕉　窓　三島氏、明治。

蕉　華　年方門人、椎塚氏の女、明治。

蕉　玉　年方門人、石川氏女、明治。

蕉　園　本姓榊原氏、年方門人、後池田輝方に配す、明治。

守　國　鶴澤探山門人、橘氏、俗稱檜村宗兵衞、名は有税、後素軒と號す、文學に秀づ、大阪人、延享中歿、七十歲。

守　一　二世等琳門人、泉氏、俗稱吉兵衞、人呼びて目吉といふは本郷一丁目に住せし故に一丁目の吉を略して云へるなり壽香齋又た春香亭と號す、寛政頃。

守　時　菱川派、山村氏、享保頃。

守　成　正德頃。

新　平　菱川師宣門人、正德頃。

新三郎　五十嵐氏。

新　松　懷月堂の末流。

新右衛門　榎本氏、俗稱丹波屋、京都住、延享頃。

新泉　勝間龍水。

如山　榮深風、豐川氏、文政頃。

如圭　雪鼎門人、流光齋と號す、大阪人、文化頃。

如鼎　葛飾氏。

如蓮　葛飾氏。

秋童　門牛齋と號す、安永頃。

秋琳　勝川春扇の前名。

秋艃　十返舍一九の假名ならんと未詳、文化頃。

秋峯　筒井年峯門人、辻村又男後に間野秋岳門、明治六年生、大阪。

秋香　富田氏、明治。

鉦翁　吳竹齋、延寶頃。

鐘成　曉鏡成と稱す、本姓木村彌四郎、醬油、味噌を營業とす專門畫家に非ず、晚年丹波福知山にあり、事情あり牢獄に繫がれ、終に萬延元年十二月十九日牢死、六十八歲。

鐘山　雛屋立圃男、生白鐘山一に鏡山とあり、未詳。

壽信　森川氏、明治。

壽角　松月堂不角の男、俳書を能くす、寶曆。

振鷺亭　鳥居淸長門、猪苅氏、名は貞居、通稱與兵衛、文化十二年十一月廿三日變死す、戲作者なり。

式麿　歌麿門人、俗稱東海林平次右衛門、江戶住。

此麿　歌麿門人、喜多川氏、煙里亭と號す、享和頃。

寫樂　東洲齋と號す、俗稱八郎兵衛、一に十兵衛、齋藤氏、阿波侯抱の能役者なり、雲母繪の祖、寬政七八年頃、或は享和元年に死せしと。

實信 長谷川氏、綠一齋と號す、大阪人、天保頃。

叙清 京師人、正德頃。

子興 百川氏、享和二年榮松齋長喜と改む、石燕門人、錦繪は歌麿に似、肉筆は北齋に似たるものあり、

嘯月齋 元文頃。

笑丸 小本挿繪、天明頃。

耳鳥齋 俗稱松屋平三郎、狂畫を能くす、大阪の人、安永頃、二の部を見よ。

乘龍 岡本豐彥門人、三畠氏、上龍と同人、天保頃。

上龍 乘龍と同人。

襲明 小林氏、明治。

珠雀齋 明治。

至信 享保、元文頃。

舟調 歌麿同時なり門人ならん玉川とあり、享和三年の出版物にあり。

集馬 北齋門人、牧亭と號す、草雙紙あり、文化頃。

薪水 勝川春水門、勝川氏、寬保頃。

拾水 祐信守國の筆意に似たり、京師の人、下河邊氏、延享、天保頃。

親信 松野氏、伯照軒、拍笑軒等と號す、元文頃。

親次 青島氏。

昇亭 昇亭北齋とあり、橋本北齋の別號ならん、北壽も又昇亭と號す。

昇亭 北壽の別號。

章波 上野氏、明和。

色粧軒 宮川氏。

眞虎 本姓小泉氏、幼名門吉、衞門七、小門太、壽太郎等改名す、俗稱大石順平、初め張月

撫門に入りし時は撫谷と號す後に渡邊淸に從學す、別號鞆の舍と云ふ、後剃髮す、名古屋の人、天保四年四月十四日歿、四十二歳。

眞古 鳥居風。

眞龍 上龍門人、吉原氏、嘉永頃。

昌次 寺澤氏。

昌宣 吉川氏。

紫紅 初代廣重門、加藤八百。

紫山 藤麿風なり、雲亭と號す。

照信 西川氏、享保頃。

洲勢 芳洲門人、歌川氏。

紹眞 蕙齋又は政美を見よ。

充雄 安田氏、京都住、元文頃。

甚七 音山氏、享保頃。

猩々坊 万延頃、江戸住。

篠原女 榮之門人の遊女。

審也 渡邊氏、新聞挿繪、明治。

湘雲 英氏、明治。

美麿 月麿門人、後に北川美丸と改む、文政十年二世重政となる、弘化頃、美丸を見よ。

美信 春信門、駒井氏。

美丸 初め北川氏、小川氏と改め更に北尾氏と改む、華蘭齋、紅翠齋と號す、二世重政。

美國 政美門人、北尾氏、文政頃。

美政 尾州德川家藩士、川崎六之丞後に六之と稱す、武道、謠曲、抹茶等の諸技に通ず、浮世繪を沼田月齋に學び、美政と號す、明治十四年八月十六日歿、七十五。

百齋 文化頃。

百宇 山本信義を見よ。

百龜 小松屋と云ふ、藥種屋なり俗稱三右衛門、畧暦多し、寛政四年八十餘歳歿。

百穗 平福氏、明治。

百花 英山門歟、菊川氏。

筆女 初代豐國門人、歌川氏。

茂次 藤原氏。

孟鯉 永理門人ならん。

孟齋 芳虎門人、歌川氏、本姓永島氏、慶應頃。

清元 鳥居氏、俗稱庄七、大阪の俳優にして淸信の父なり、貞享四年家を携へて江戸に下り元祿三年始めて市村座の看板を書く、實に是れ鳥居家が永く江戸劇塲の看板を世業とする基なり、元祿十五年四月廿八日歿、五十八歳。

清元 淸峯門人、一説に淸滿門人雪光齋と號す、俗稱三郎助、文化頃、七十餘歳歿。

清信 淸元の男、鳥居流の祖、俗稱庄兵衞、父と共に江戸に下り、四座の芝居看板を書く、錦繪あり、享保十四年七月廿八日歿、六十六歳。

清信 川島氏。

清信 近藤氏、淸春の男か、一枚繪あり。

清信 鳥居氏、寛延年號を記せる版繪あり、初代淸信、享保年中に死去せるより考ふれば別人なるは明なり、淸倍の晩年の改名か、尙考ふべし。

清倍 淸信の長男、鳥居二代目にて二代淸信と稱せしとの説あり、俗稱庄二郎、寶曆十三年十二月二日歿、五十八歳。

清重 淸信門人、役者似顔畫、享保頃。

清忠 淸信門人、通稱藤次郎、彩色の上手、享保頃。

清忠 淸長門人、俗稱山口善右衞門、二世淸忠と稱す。

清忠　二世鳥居清忠の男、三世と稱す、明治八年六月十五日歿五十九歲。

清忠　鳥居氏、本姓齋藤長吉、父鳥居清貞に學ぶ、南陵とも號す、明治八年生。

清朗　清信門人、享保頃。

清春　鳥居氏。

清春　菱川氏、京師の人、天保頃。

清春　近藤氏、俗稱助五郎、金平本及び讀本あり、正德頃。

清滿　清倍の次男龜次郎、鳥居三代目、天明五年四月三日歿、五十一歲。

清滿　鳥居五代目、初め清峯と稱す、清長歿後、天保年間二代目清滿となる、清峯を見よ。

清滿　鳥居六代目、俗稱榮藏、初め清房三代清滿なり、清房を見よ。

清經　清信門にも清經ありとの說あり、詳ならず。

清經　三代清滿門人、俗名大次郎と稱す、芝居版元中島屋伊左衞門の子なり、安永頃。

清英　鳥居家三代清滿門人、寶曆頃。

清胤　鳥居氏、正德、享保。

清長　三世清滿門人、鳥居家を襲ぎて四代目となる、關口氏、俗稱新助後に市兵衞と改む、武者美人畫の名手、一說に元祿、寶永以來此人の右に出づるものなしと、鳥居中興の祖と謂つべし、師清滿の孫たる庄之助を養育して清峯と名乘らしむ、清長歿するや清峯鳥居家五代となり清滿と改む、文化十二年八月廿二日歿、六十四歲。

清里　清長門人、寛政頃。

清勝 清長門人、寛政頃。

清秀 鳥居派、清長門人、寛政頃。

清次 清長門人、寛政頃。

清久 清長門人、寛政頃。

清定 清長門人、寛政頃。

清廣 清長門人、通稱七之助、安永五年弱冠にして歿す。

清俊 清長門人、或曰く、三代清滿門と。

清時 清長門人、一世清時と稱す。

清時 清長門人、通稱金三郎、二世清時と號す。

清政 清長門人、俗稱爲吉。

清之 清長門人。

清峯 鳥居五代目なり、俗稱庄之助後に二世清滿と改む、清滿の女婿松屋龜次の男なり、清長に教育せらる、文化の頃、歌川豐國專ら世に行はれしかば、清峯之に倣ふ、清長歿するや、文化十二年十一月の顔見世より二世清滿と改名し青龍軒と號す、明治元年十一月廿一歿、八十二歲。

清峯 五世清峯の養子、俗稱米次郎、初め清行後六世清峯と稱す、慶應三年十月九日歿、三十二歲。

清行 六世清峯を見よ。

清安 鳥居五代目清峯門人なり、俗稱虎次郎、文政年中歿。

清貞 國芳門、芳郷と號す、後に鳥居二世清滿門人となり、清貞と改む、本姓渡邊氏、俗稱齋藤長八、蝶蜂と號す、明治三十四年二月十四日歿、五十八歲。

清國 五世清峯の二男、早世、弘化の頃。

清芳 五世清峯の長男、六代目なり、幼名亀次郎後榮藏、父歿

後三世清滿と改稱、明治廿五年八月十九日歿、六十一歲。

清雅 鳥居五代清峯門人、姓は河本、本姓は山口、大阪人、後柳川重信門に入り柳亭淸川重春と改名す。

清房 三代清滿門、鳥居派。

清房 和繪、谷川清房と落欵す。

清直 鳥居派。

清近 鳥居派。

清親 月直氏、祇園社に村上座狂言の額あり、天和頃。

清親 小林氏、旧幕臣瀬兵衞の男力圓舍眞生樓と稱す、師なし新聞挿繪に長ず、錦繪狂畫多し、大正四年十一月廿九日歿六十九歲。

清種 六代清滿門人、福田元三、明治廿三年十一月十八日歿、六十一歲。

清高 鳥居派。

清谷 姓氏未詳。

清雲高 姓氏未詳。

清方 年方門人、鏑木氏、明治。

清貞 鳥居氏、本姓川邊花陵。

清麿 歌麿風、幾代麿とも書す、江都の人、寛政頃。

正信 探幽齋と號す、一說に探幽齋守信に比しての假名ならんと、貞享頃。

正信 一楊齋と號す、大阪人、弘化頃。

正信 二世國貞門人、梅童と號す明治頃。

正歲 浮世氏を稱す、姓名詳かならず、元祿前の人。

正高 師宣門人、杉村氏、俗稱治兵衞、元祿頃。

正之丞 師宣の弟。

正久 自ら北齋の孫と稱す、葛飾

を稱す、新聞挿書あり。

正幸　長春門ならん、宮川氏。

正近　小松洞玉門人、中谷一近の後名。

政信　師宣門人、菱川氏、字は守節、元祿頃。

政信　奥村氏、俗稱源六又は源八文角、梅翁、親妙、芳月堂、丹鳥齋等の號あり、書肆を業とせり、初め鳥居風後に菱川西川風を混ゆ、浮繪紅畵の祖明和五年二月十一日歿、七十九歲。

政信　梅童と號す、明治。

政春　奥村政信門人。

政房　奥村政信門人、文志。

政演　重政門人、幼名甚太郎、俗稱京屋傳藏と云ふ、初號重演名は減、字は伯慶、後に名は醒、字は酉星、醒齋、葎齋と號す、戯作の大家山東京傳にして、寛政元年則ち京傳三十歲より、浮世繪を廢し專ら戯作に從事す、狂名身輕折輔と號す、菊花亭、聽翁、鷄告、甘谷、寶山、東洲等の號あり旧名拜田寶山といへるよし、文化十三年九月七日歿、五十七歲。

政房　奥村氏、文志と號す、芳月堂弟子と片書せるあり。

政貞　二世國貞門人、梅莚と號す明治。

政久　楳堂と號す。

政美　北尾氏、本姓赤羽氏、後に鍬形氏、俗稱三二郎、杉皐又蕙齋と號す、狂歌名、麥野大蛇麿、後に福井藩に仕ふ、薙髮して紹眞といふ、三十六歲の頃浮世繪を止む、又畧書式を刊行して其名著はる、文政

七年三月廿二日歿、六十四歲。

船麿　浮世と書す、文化頃。

雪鼎　高田敬輔の門人、木田氏、俗稱丹下、名は昌信、字は大溪、信天翁、月岡山人、錦童、露仁齋、桃溪等の號あり、月岡雪鼎と號す、近江產、天明六年十二月四日歿、七十七歲。

雪齋　月岡氏を稱す、雪鼎の長男名は秀榮或は安秀、字は大素、雪齋の養子は即ち芳年なり。

雪溪　月岡氏、雪鼎の次男。

雪三　天保頃。

雪蔭　美人書、文化頃。

雪峯　一世嵩谷門人、或は曰、一世一蜂門人、俗稱福王茂右衞門、名は盛勝、白鳳軒又旭窓翁と號す、能役者なり、天明五年三月十八日歿。

雪麿　月麿門人、喜多川氏、俗稱田中善三郎、墨川亭又敬丹舍と號す、高田侯の藩士、安政三年十二月五日歿、六十歲。

雪岑　雪峯と同人。

雪馬　尋雪齋と號す、大阪人、弘化頃。

雪窓　歌川芳秀と同人。

雪旦　長谷川氏、名は宗秀、一陽齋又巖岳亭と號す、本姓後藤氏、俗稱茂右衞門、江戶名所圖會を書く、天保十四年歿、六十六歲。

雪仙　闕氏、怪說草雙紙を書く。

雪山　井上氏、梅林齋と號す、浪華の人、文化頃。

雪坑齋　北尾辰宣の別號、延享頃。

雪圭齋　北尾辰宣門人、岡本氏、明和頃。

雪擕齋　寺井尚邏重房の別號。

雪鏡齋　明治。

泉晁 英泉門人、俗稱吉藏、貞藏と號す、天保頃。

泉鉄 泉守一門人、壽川齋と號す。

泉橘 英泉門人、俗稱仙吉、紫飯齋と號す、天保頃。

泉壽 英泉門人、俗稱伊三郎、英齋と號す、大阪の人、天保頃。

泉隣 英泉門人、井村氏、山齋と號す、天保頃。

泉里 英泉門人、俗稱彌六、嶺齋と號す、天保頃。

井特 京都東山祇園住、字は伯立。

石燕 狩野周信門人、鳥山氏、本姓佐野氏、名は豐房、零陵洞、玉樹軒、飛雨等の號あり、フキボカシの工夫を爲す、天明八年八月三日歿、七十九歳。

石調 石燕門人、天明頃。

石賀 石燕門人。

石仲 石燕門人。

石湖 石燕門人。

石榮 石燕門人。

石柳 石燕門人。

石鳥 石燕門人、燕川舍と號す。

石壽 石燕門人、綠亀洞と號す。

石上 梶原氏、俗稱五郎兵衞、樹下石上市中山人と號す、寛政頃。

石峯 石田氏、玉山の男歟、未詳大阪住。

昔信 石川氏、圓月堂と號す、石川豊信門か。

全暇 赤猫齋と號す、京師の人、寶永頃、所謂鳥羽繪を書き初むと。

盛信 俗稱半次、京師の人、享保の頃。

赤子 鍬形紹眞の男、紹意の號、越後侯抱繪師となる、安政二年四月廿九日歿。

赤城山人　草雙紙あり、文化頃。

詹々子　歌川豊春風、細貫氏。

善　清　大森氏、京師住、元祿、正德頃。

善右衛門　雛屋と稱す、享保頃。

洗　厓　年恒門人後に永洗門人、井川常三郎、明治九年生、東京。

千　萬　天保頃。

千　醉　蘚雲齋と號す。

千代女　歌麿風、喜多川氏。

蘚雲齋　千醉の號。

齊　倍　文化頃歟。

靜　齋　國芳門人、伊藤氏、芳村又蘭溪と號す、明治。

靜　方　年方門人、大野平三郎、明治十五年生、東京。

靜　岐　細木氏、新聞挿繪。

靜　雨　伊藤氏、新聞挿繪。

青林齋　姓名不詳。

晴　洲　中江藍江門人、佐々木氏、大阪住。

菁莪堂　蔀關月と同人との說あり、柳川源二郎。

生白鐘山　立圃の男なり、或は曰く鐘山と。

川　敎　石燕門人。

仙　果　笠亭と號す、戲作者なり。

扇　里　勝川春扇門人。

嵩　之　英一蝶門人、佐脇氏、俗稱甚藏、名は道賢、字は子嶽、中嶽堂、東宿、幽篁亭の號あり、始め嵩椿又英一水、果々觀、東窓翁、一翠齋等の號あり、明和九年七月六日歿、六十六歲。

嵩　雪　嵩之の男、俗稱倉次、名は貫多、仰止樓、中岳堂、翠雲堂と號す、文化元年十一月十二日歿、六十九歲。

嵩谷　嵩之の門人、高久氏、本姓は本國、名は一雄、字は子盈、英一、樂只齋、屠龍翁、湖蓮舍、翠雲堂の號あり、文化元年八月廿三日、歿七十五歳。

嵩谷　嵩溪の男、二世嵩谷と號す名は大雄、字は可親、初め嵩嵺と稱す、一相齋、致雲堂、鄰庵、物々齋の號あり、明治八年三月二十七日歿、七十六歳。

嵩溪　嵩谷の男、名は信宣、字は可復、玄々齋、煙龍舍、睡雲子、寉翁等の號あり、文化十四年四月七日歿、五十八歳。

嵩嶽　一世嵩谷の男、名は良恭、早世。

嵩嵺　嵩溪の男、二世嵩谷の初名嵩谷を見よ。

嵩嵺　初名嵩英、幼名菊丸、二世嵩谷の家を嗣ぐ、後二世嵩嵺と號せり、明治十七年十一月十五日歿、五十五歳、其子虎尾早世家絶ゆ。

嵩深　名は可主、字は信俊、後に一珪の養子となり、英一笑と稱す、安政五年八月十二日歿、五十五歳。

嵩英　二世嵩嵺を見よ。

嵩月　一世嵩谷門人、名は常雄、字は子祀景納、蓑蟲庵と號す天保元年十一月廿日歿、七十六歳。

嵩松　一世嵩谷門人、狂歌名元の木阿彌と號す、文政頃。

嵩卿　一世嵩谷門人、名は信實、後に友松庵一珪と稱す、天保十四年十二月廿一日歿、八十歳。

嵩林　一世嵩谷門人、後に三世一蜂となる、天保頃。

嵩琳　一世嵩谷門人、四世一蜂となる、天保頃。

嵩樹　一世嵩谷門人、字は尙康。

嵩岳　一世嵩谷門人、和田氏、白鷺樓と號す。

嵩雲　一世嵩谷門人、淸氏。

嵩旭　一世嵩谷門人、中根氏。

嵩濤　繪馬額助と同人。

水鷗　田村氏、元祿、享保頃歟。

水瓢子　水鷗に似たり。名は義堅或は義敷とせるあり、池尻氏。

水盧朝　春日の圖あり。

翠榮堂　松川半山の別號。

翠釜亭

翌（翠）葉　明和頃。

浮世繪師人名辭書　完

約壹千名に近き浮世繪の人名を相撲

翠

翠栄堂　松川半山の別號。

翠釜亭

翠葉　明和頃。

浮世繪師人名辭書　完

浮世繪師生死年齡早見表

勝以——七十三歳

立圃——七十一歳

師宣——七十七歳

一葉——七十一歳

[illegible]信——六十六歳

祐信——八十一歳

長春——七十三歳

雪鼎——七十七歳

豐信——七十五歳

春信——四十歳

春章——六十七歳

豊春——八十[illegible]

重政——八十[illegible]

の別號。

……。

……辭書　完

……繪師生死年齡早見表

祐信——八十一歲

長春——七十三歲

雪鼎——七十七歲

豐信——七十五歲

春信——四十歲

春章——六十七歲

豊春——八十……

重政——八十……

祐信
八十一歳
長春 七十三歳
雪鼎 七十七歳
豊信 七十五歳
春信 四十六歳
春章 六十七歳
豊春 八十歳
重政 八十二歳
江漢 七十二歳
清長 六十四歳
歌麿 五十三歳
榮之 七十四歳
俊滿 六十四歳
政演 五十七歳
北齋 九十歳
北齋死
政演死
豊國 五十七歳
榮山 八十一歳
廣重 六十二歳

天和 貞享 元祿 寶永 正德 享保 元文 寬保 延享 寬延 寶暦 明和 安永 天明 寬政 享和 文化 文政 天保 弘化 嘉永 安政 萬延 文久 元治 慶應 明治

六十六歲

祐信 八十一歲

長春 七十三歲

雪鼎 七十七歲

豐信 七十五歲

春信 四十六歲

春章 六十七歲

豐春 八十歲

重政 八十二歲

江漢 七十二歲

清 六十四歲

桑原雙蛙氏著書

◉既刊之部

裝劍金工談

和裝一册

明治卅七年三月出版

神戸三宮町　明輝社

祐乘、乘眞其他に關する論說集にして、目下絕版なるを以て近く本館にて再版すべし。

再版 彫金家年表

定價八拾錢
和裝一册

子爵谷干城閣下題字
刀劍鑑定家今村長賀君序

附　書工　鍔工　刀工　陶工
塗工　鑄工　其他名流年表

初版　明治四十二年八月十五日
再版　大正十二年正月

祐乘以後の彫金家を緯とし、書工其他を經とせる四百餘年間の美術家年表なり、目下絕版なるを以て今回本舘にて再版せり。

浮世繪見立一覽

定價拾錢
折本一册

大正三年九月出版

東京　書畫骨董雜誌社發行

約壹千名に近き浮世繪の人名を相撲

番附風に集錄せしものなり。

不昧公印譜

松平直亮伯爵題字

定價五拾錢　唐紙摺折本

大正六年十月廿日出版

松江市天神町　秦文明堂發行

嘉永三年、公三十三回に當りて、上川俊彦氏の蒐集せる、公の印譜あれども、遺脱多きを以て公の百年忌に當り更に印影十六七顆を增加して出版せるもの、公の遺墨研究家の指南車なり。

三版　金工相撲一覽

定價拾錢　折本一冊

大正十一年二月十五日出版

松江京店　敎文舘發行

家彫、町彫中の名人上手を始めとして、約參百人の人名を見立番附風に集錄せしものにして、其位附の一班を知るべきものなり。

一木喜德郎博士題字

古今裝劍金工一覽

定價二圓八拾錢　和裝一冊

美濃摺横本

大正十一年十月十日出版

大阪東區豐後町三四　福島出雲堂發行

在來の金工便覽は其所收貳千名に過ぎざるに、本書所載工人名は約五千名にして、其蒐集の富豐なる便覽ありて以來の好著なり、而して各詳傳を附し、且つ流派系圖を附錄として之に添へあれば、金工研究家に欠くべからざるものなり。

北齋改名考

定價參拾錢　一冊

大正十一年九月五日出版

松江市京店　敎文舘發行

本書は北齋の俗名、雅號等の改號、年代等を比較研究せしものなり。

鑽工銘彫華押鑑

定價約八圓　近刊

出版元　大阪西區阿波堀二丁目三番地　遠藤活版所

最上の洋紙を用ひ、全部コロータイプ版とせる裝劍彫金家の銘彫華押の墨摺を原物大にして蒐集すると、約千五百枚、實に著者二十五ヶ年間努力の結晶なり、故に其彫金界を益すると鮮少ならずと信ず。

◉未刊之部

裝劍金工鑑定法汎論

鑽工押字考

浮世繪師落欵花押印譜考

幕末雲州歌人雅俗名覽
加納夏雄談話筆記
雙蛙亭論説集
雙蛙亭漫錄

以上

前掲既刊御入用の
諸君は御注文次第
直に送本可仕候

株式會社 教文館
振替大阪四四七三二

大正十一年十二月廿五日印刷
大正十二年一月二十五日發行

松江市東茶町拾九番地
著者 桑原羊次郎

松江市東茶町拾五番地
印刷者 島根縣家庭興業社

松江市末次本町八番地
發行者 株式會社教文館
振替口座大阪四四七三二番